

(昭和 13 年 4 月 1 日～昭和 17 年 1 月 2 日)

昭和 13 年

4 月 1 日 藤田鴻輔中将より父へ

拝復、貴翰(かん;手紙) 拝見御清栄奉賀候、御令息芽出度御進学大慶至極に存候。山口御在学中は養成所の為に尽力御骨折を辱(かたじけの) うし奉(たてまつ) り候。当時より小生は切に御令息の将来益々御向上と御成功を祈居申候(いのりおりもうしそろう)。下略

4 月 10 日 父へ

前略、其後御病勢は如何ですか。7 日の予定が、諸先生訪問に暇どり翌 0 時 20 分小郡発の急行になりました。其間小川先生から毛利家・毛利家編纂所・国民精神文化研究所に居られる防長及山高先輩への紹介状を 5 通頂きました。8 日午後 7 時 45 分東京着、田坂兄(けい) 出迎へられる当夜は兄のアパートに世話になりました。

田坂兄は論文で忙しいので早く下宿をと思ひましたが、例の平泉先生の寮は山高の諸先生諸先輩の評判頗る悪く、先生組織の史学会(朱光会)へは一般の受けは悪くとも入会してよいが、寮は多少右翼じみて居り、実行運動をなし寮生の悪指導に躍らされる事もあり得るとの事(こと) 故、田坂兄の所より三分とかゝらぬ此処に下宿しました。

いゝ家で老夫婦・二十台の姉弟の家族、二階四畳半の部屋で月十円、万事田坂兄の世話です。下略(下宿は小石川区指ヶ谷町 65 長谷川文三郎方)

4 月 12 日 父へ

前略、・・・学資の事、食費は大学内に三つの大食堂があり、栄養食で 1 日 45 銭で充分、借間代は電灯料を入れて月十円、此処は 15 分位かゝる所で立派な部屋ではありませんが、健康的で家人もよい人です。制服三拾円、制帽は田坂兄の先輩のをもらって頂く事になって居り、もし、なくても二円位です。交通費の多くかゝるのは驚きです。椿に行くのに 20 銭もかかりました。今まで必要なかった部屋の備品、日用品に学用品を加えると金又金で余す所 20 円、金の有難さと一銭の大切さを痛感しました。

中略——在学証明書 15 日迄に届かぬと無効になりますので直接役場に送って置きます。(徴兵延期願手続上必要) 本日山高教授橋本先生が東大学生課学生主事になられたお祝ひを兼ね御指導を仰ぐべく学生課を訪問、前山高教授で現学生主事の吉田先生を紹介して頂き、二先生より勉強法・態度・心持に至るまで御指導を受け、一年一学期の重要性を痛感しました。

平泉先生の史学会と寮とは別々のものらしいですが、国史科は朱光会とに分裂して争ってゐる由ですが、朱光会は時局に便乗して反動的であるとの悪評紛々です。一方に偏し一学者に心酔する事なく、諸学説を客観的に批判しながら自説を確立せよと云ふのが、山高先輩の注告(進言) ですが、朱光会には入るつもりです。束縛のない事を期待して——下略

4 月 27 日 長谷川文三郎氏より父へ

・・・東京は諸国のお人が入込居る事とて、兎角誘惑され易く目的を達し得ざる御人も有之候事故(これあることゆえ)、其辺は十分御注意申上べく心組(心づもり) に御座候、且又御本人も誠に御堅実なる御気質と拝察仕(つかまつり) 候間、御心配無之様御放念相成度・・・後略

5月4日 父へ

男の赤ん坊が生まれた由、まる20年下の弟ですが、私に似てゐるとあれば、可愛がって立派に仕立ててやりたいもので、愉快です。史学会の部会・総会・見学行・国史十一日会・高校同窓会（鴻南会）と色々臨時の出費がありますが、差し迫って金の必要はありません。

15日には毛利公爵家什宝展覧に行くことになってゐます。連日の様に學術講演がありますが、その選択に困ります。藤田閣下から11日上京の手紙が来ました。本当に後輩として所遇して下さいてゐるようです。

読めば読む程深遠な學問、三年でどれだけのものが得られやうか。一生の問題だと痛感します。前略中略後略

5月5日 父へ

本日確に金五十円也受取りました。・・・略・・・靖夫と命名の件結構だと思ひます。今日平泉さんに、鎌倉新仏教創始者に大師号が贈られたか、贈られたとすれば何時か、といふ問題でとつちめられました答へ得ず、孝明・昭治・大正天皇時代なる事及何故鎌倉時代に贈られなかったか等に就て調べ、帰宅が後れましたから、靖夫に就て充分調査が出来ず、単に漢和辞典に依つて感想を述べるに過ぎません。

・・・中略・・・名前の有する意義は後天的に大影響を与へるは当然で、充分考慮されるべきだと思ひます。・・・名前は恰も運命づけられたものなるかの如くに、意識する時と然らざる時に拘わらず、志の向ふ所を自ら規定する様に思へます。・・・字源がわかりませんから断定は出来ませんが、靖の字は本来「やすんず」であつて単なる安でなく、激しい氣象はないにしても内面的な意志の力で「しづめをさむ・はかる・おもふ」のであつて、その結果静・清・和が齎（もたら）されるの意かなと受け取れます。靖献遺言・靖国の如く勝（すぐ）れた熟語はないが、悪い意味になる熟語が全々ないことはよい事です。但し身分不相応悪かつた例は迪子の場合で経験済みですが、それに似た事が綏靖天皇で云へぬかと気になります。こる必要はありませんが、留字夫はどうでせう。男の方が。国史辞典が必要ですが家があればお送り頂けないでせうか。坪井博士「史学研究法」黒板博士「国史研究年表」大倉精神文化「祭政一致と臣民道」渡辺博士三坂先生「国防国府の研究」村岡典嗣「日本文化史概説」ベルンハイム「歴史とは何ぞや」メーソン「神ながらの道」橘文七「帝王之師杉浦重剛先生」を買ひました。・・・下略

5月22日 父へ

20日貳拾円受取りました。・・・今暫（しばらく）くすれば防長教育会の方も決定ませう。皆健康で武男も健やかに成長する由、本当に喜ばしく思ひます。・・・

昨21日鈴木さんを訪ねしました。手紙を回送して頂きましたので、一つの資料に対するつもりで鈴木さんのお考へを検討し、實際のお話しと対比・態度を決定すべく年表してゐましたが、思ひの外の教養見識の高さに圧倒され、その上話の進め方が上手で実直真剣で条理を尽くしており、私が結論を出す余地がありませんでした。鈴木さんの申出の重点が家庭教師を求めて居られる方面にあるのか又は同情して私を世話してやらうとのお考への方面にあるかを問題にして居り、若し後者であるならお断りする考へでしたが、遂にそれを突止め得ず、万事父上と相談の上でといふ事にして置きました。・・・

最近考へることの苦しさをつくづく味はつてゐます。高校時代不思議に疑問に乏しかったのに、今や問題が次々に現はれて、それも数学的な純理でなく、国家・人生の根本にまで突き進むものなる故、その苦しさは格別です。例えば漠たる神話の解釈でもそれが国体本義に関係してゐる以上、徹底的に究明しなくては爾後の学問が成立しない気がして、高天原と国生みには特に頭を煩はせてゐます。時には一頁の本を読むのに問題が次々に進展し、知らぬ間に本題より派生した全々別の問題に夢中になってゐることがあり、最近余りにも精読主義に惰した嫌ひがあります。・・・

15日には毛利公邸に行き宝物を拝観写真を頂いて来ました。その前日は全国から学者が集まり史学会が開かれ、華々しい論戦にうっとりしました。 下略

5月25日 父へ

唯今防長教育会貸費許可の通知が参りました。同封の誓約書及宿所及印鑑届を早速提出しなくてはなりません。在京保証人は従前からの関係もあるので松崎さんにお願ひすべきかと思ひます。私個人としては渡辺世祐博士がいゝのですが、・・・

東京在学者は毎月第一金曜日午後5時、教育会に会合して貸費金を受取り貸費生例会を開くことになってゐます。・・・6月4日には4・5・6月分計90円入手、貯金致します。下略

6月2日 父へ

鈴木家の件前便の御意見に基き、一学期は行かぬ事、一年目は家庭教師たる事を欲してゐない事、万一適任者なく是非小生をとの事ならば、9月に改めて御相談する事を申し送りました。

大学の試験は、3月或はそれ以前に講義終了次第行はれ、所謂暗記試験は少く論文試験が多く、成績の良否は日常に係つて居り、私達の現実の姿は、読む事・書く事・考へ苦しむ事を以て生活の根幹とし、時には自己の無能を自覚して絶望したり、時には大勇猛心を起し、驚くべき精神の喜悦に浸りつゝその反復に終始してゐます。

特に国史と云ふ学問の性質と時局の展開とは、凡そ外部では想像の出来ぬ雰囲気を醸し、新進教授の気魄は当るべからざるものがあり、それに追従せんとする者には一通の苦勞ではありません。従つて他人の勉強を見る心のゆとりが乏しく、且亦従来の経験からして、一旦教師を引受けると深入りし遂には全く私の主義に化さしめずには措かぬ行過ぎがありますから、大いに自戒せねばならぬと思ひます。・・・中略

保証人は渡辺博士に頼み承諾して頂きました。5日には古文書学の相田講師の指導で立川のXX古文書XX(欠辺不明)に参ります。下略

6月22日 父へ

19日毛利公邸宅に於て山口県学友会春季大会があり、二百数十名会し、末次大臣の時局談・賀屋さんの経済談があり、仲々意義深い半日を過ごしました。朱光会の件父上の御意見を承りましたが、父上の御不安は当らない様に思ひます。・・・若し父上の真意が、私達の考へが、所謂時局を喰ひものにする似て非なる国士・日本精神家のそれとなり、亦唯情熱のみで内容空疎なもの、或は軽挙妄動者に陥らんことを恐れられるのであれば、当然であります、事實は生きた学問をやらんと努力で、正学を求め高い見識を身につけんと努力であります。・・・中下略

6月25日 父へ

前略・・・偕(さ)て今度山口県学友会の方から、私を常任幹事・特に総務に推薦するから承諾をして呉(く)れる様にと依頼状が参りました。総務は二名で各部整理と会長及び各名士との接触が主任務なる由、明日周布会長と面接の上態度を決めるつもりです。防長教育会の世話になって居りますし、防長出身各名士に接することは身の為にもなりますので、状況をみて承諾する事もあると思ひます。大体授業は終わりましたが、7月1日から一週間の朱光会鍛錬会に出席し、その間全国歴史研究会にも参加し、10日過ぎに帰郷する予定です。一部略

6月27日 父へ

帰省の件、来月8日の相田二郎先生の古文書学に出席し12・13日になると思ひます。学術振興会の国史学大会出席の為、小川・匹田先生御上京の由、小川先生から通知が参りました。

周布男爵邸にて、野村毛利家家令・防長倶楽部理事出席の上、学友会幹事会が開催され、総務を固辞しましたが大勢で如何ともすべからず、遂に承諾しました。

書籍暴騰、松陰全集は三倍、一般は三割高い、高山岩男の「哲学的人間学」東大「読史備要」其他神道学雑誌・歴史教育・歴史公論等、必要論文を含むもの数冊を購入しました。

6月29日 父へ

前略 夏期帰省中の下宿料は山口の如く不要と思つていましたが、長谷川氏は七・八月二ヶ月分先払い20円を要求、田坂兄によれば東京は大體此の制なるも、所では保管料だけしか取らぬ由、こんな理由から学生課では無償にて荷物を保管して呉れる由、長谷川氏は割引を肯定しません。20円は大金、高価な図書二・三冊買えます。長谷川氏は永続を希望してゐますが、一旦出て9月再び下宿探しをしても、と考へますがどうでせう。

9月14日 藤田鴻輔中将より来信

前略・・・本夏は愚息の御指導に容易ならざる御尽力を忝(かたじけな)うし、感謝に堪へず候。彼としては全力を傾倒せるものの様に思はれ候。基々往来魯鈍者にて、成功は到底覚束(おぼつか)なしと存候。併(しか)し乍(なが)ら学究の方法は精々会得せしものゝ様に、これ有るべく申候に付、彼の将来には裨益せしこと当然なりと信じ申候。試験の成績は、余程辛く採点して四割強、やゝ甘く採点して五割強の出来具合かと存候・・・中略・・・将来も相変らず御指導下されたく希望し奉り候。下略(日出夫君陸士受験に関し)

9月16日 父へ

拝啓 唯今御便り拝受 御注意や家郷の模様を有難く拝読いたしました。勝彦朱光会鍛錬会に参加仕(つかまつ)り、元気にて修養、彌々(いよいよ)志を堅くして昨15日より通学致して居ります故、何卒御安心下さいませ。

鍛錬会中13日乃木祭前祭あり、乃木神社に参拝致し、顕官将星(高位名声ある將軍)学習院生居流(いなが)るゝ祭典に列し、純忠無比洵(まこと)に崇高なる將軍の魂に触れ、敬畏の情を禁じ得ませんでした。14日は松陰神社に参詣、夕闇迫る一時を先生の墓前に額突きて、若くして道の為に殉じ給ひしその悲壮なる大精神の、この我に乗り移り給へよと念願致しました。

国史の成跡(せいせき;成り行き)を顧る時、我等の仰ぐべき先哲の多くが、皇国の道の為に殉じ、若くして非業の最後を遂げたるを見れば、現今時流の根柢を直視して我等も亦悲壮なる覚悟を持たざるべからず。何ぞ軍人となりて戦場に赴くと異なる所がありませう。されど要は

是れ志、平生の心構へにして何ぞ輕挙妄動を意味しませう。瞑目して此身根本の来由を思へば、感激の心湧然として興り、報公の心勃乎（ぼっこ）として生ずるのであります。中略

連日晴天なれども清澄にして天高馬肥ゆるの感あるは流石に一日たりとも無之、僅に清涼なる airflow に依りて秋の深さを感じずに過ぎません。

先日来本格的な防空訓練が実施され、日中に於ける飛行機の乱舞は勿論、夜間に於ける探照燈の敵機捕捉・爆弾投下・高射砲の応射は実に美事にして手に汗するを覚えます。訓練参加者は、男は青年団服・女はモンペ姿、而して訓練の統制ある内外対応策の完備せる、到底田舎の比に非ず、これが今日又将来の都市の姿であると存じます。

母上が丹前の心配をして下さる由、誠に有難く存じますが、前のものを洗濯して頂だけで結構、冬服も不要、唯レインコート並のオーバーだけは欲しきものに存じます。

宮崎氏の就職は誠に結構なるも勝彦には就職は問題外で、問題になっても勝彦の往く所必ず活路が開けます。何はともあれ今日の神職界には一（ひとり）ルーテルの出現を必要とします。権威失墜の極所にある神職会が、打開を求めて悶えてゐる時、浅薄なる私見に基づく邪説の横行を見ます。此の時に当って古き伝統に還り、万古不易なる国史を一貫する大神道精神が、国史を貫く冥々（めいめい；そこはかとな）の力の中より新に復活されねばなりません。

而して今日神道学者と云はるゝ程の者、或は科学的精神を無視して異論を吐く夢想家あり、或は単なる道学者・論理学者あり、斯（か）かゝる輩により如何にして大神道の復活が期せられるのでありませうか。抑々（そもそも）改革復活の力は何処から生まれ来るか、茲に至って勝彦の任益々重きを覚えます、下略

10月3日 父へ

10月に入って我が日本学は漸（ようや）く苦しみに満ちた一步を踏出しました。新しい眼界がほのぼのと開け初め、此の一週間は緊張と歓喜の中に読み且抄（うつ）し、国史学の核心・永遠なる日本の冥力へとちり／＼つめよって行く、その辛苦故の楽しみは他に比較すべきものがありません。

日本書紀と神皇正統記・職原抄（しょくげんしょう）は大和魂を固める第一の学問書だと思ひます。近頃外国書が読みたくなりました。手頃なのが家にある筈ですが、仕方がないので英独二冊の程度の低い原書を買って翻訳を試みて見たいと思ひます。近頃余りにも精神史のみに捕はれ有職故実の重大義を看過してゐるのに気付きました。序があれば「闇齋先生と日本精神」・藤村の「国文学史」・襦袢（じゅばん）の送付をお願い申上ます。

10月8日 父へ

一昨日一金六拾円拝受致しました。・・・中略・・・昨夜も透徹しきった清空に上弦の月が皓々（こうこう）と輝き渡ってみました。

10月7日、それは幕末第一等の人物と、東湖も南洲も敬服措く能はなかつた青年橋本景岳先生が小塚原の露と消えた日であります。回向院の墓前には人の絶えまがありませんでした。而して此の同じ月のもとで世界は如何に動きつゝあるか、月は心の鏡であります。此の月に深く／＼思ひ込めた我志は、必ずや清純そのものの光となって、父上の魂に昭映することとせう。全世界の歴史観は、要は、側面的客観的に世界の流転の相を明にしようとするもので、自らも流転の渦中に滅び去るものです。しかし、私達は不易の道を究め、その道を進まんと

する者です。下略

10月23日 父へ

立派な襦袢有難く拝受致します。軸物は未だ専門の先生に見せて居りませんが、花押は正しく足利義輝、彼は曾（かつ）て防長に西下したこともあり、紙質も書式も標準通りになってゐますから偽作としては可成り巧妙だと思ひます。唯紙に手を加へて古めかしく見せたらしい点、墨色の浮いてゐる点が素人にもわかり気になります。近く鑑定結果を報告します。

靖国神社の大祭に、19日早朝参拝致しましたが身動きならず、随喜の涙を惜しまぬ遺族の方の姿を見て、皇国の皇国たる所以を実感すると共に深く時事を思はざるを得ません。七十年の歴史を有する大学の混乱、言語を絶してゐますが、私達の真の向上はかゝる事情に於て発現するでせう。下略

11月20日 父へ

25円有難く拝受、これでオーバーが買えます。今専ら水戸旅行の予習に励んで居ります。必要な論文のある古い「史学雑誌」10冊「転形期の歴史学」「日本精神と日本仏教」「大和俗訓」「關邪小言」「蘭学事始」「古今集」「土佐日記」「孫子」を購入しました。下略

11月22日 父へ

19日20日平泉先生の御指導に依る水戸旅行は、晴天に恵まれ実に快く見学を進めることが出来ました。二週間に亘る下調べと先生の徹底せる解説とにより、洵に有意義な旅行となりました。旅行中熊本校長先生より御便り頂戴し恐縮しました。私に云はむとする所目標とする所を数言にして尽くされ、全く卓越独歩の識見を以て御教訓下されしは、流石に一世の導師、有難く存じてゐます。

今年は陸士に五人も合格した由、母校の為喜びに堪えません。勉勵の好期故帰省しません。日本学叢書・松陰全集・唯物史観講話・日本唯物史論・カントとマルクス・庭訓往来古版本・佐久良東雄歌集を購入。下略

11月29日 父へ

前略 東京は未だ冬らしくならず、僅に夜の冷えを感じざるばかりにて、健康にて勉学に専念して居ります。史観と水戸学とに専ら力を傾けて居りましたが、三月の試験の事も考慮に入れ、漸次研究をその方向に集中して行きたいと考へて居ります。

現在受講 15科目中 11科目受験し、規定の 21科目を2ヶ年で終える予定にて、好成绩を期して居ります。独自の不断の研究を主とするは勿論ですが、講義の成績も抜群が必須であるべきで、それがなくては平生の学問が虚学に等しいと考えます。「カントとマルクス」「日本唯物史論」「明治維新史研究」「日本国家学」を購入しました。

12月3日 恩師小野川重蔵先生より

先日校長先生より貴翰を拝読し、貴君の牢固たる信念を窺知することが出来て非常に喜んで居ります。・・・中略・・・貴君等が日増しに偉くなって行くのを見たり聞いたりする時には、限りない愉快を味はひます。どうかしつかりやってください。・・・

校長先生から君の人物をほめられるのを聞くと本当に嬉しく思ひます。次に同窓会誌に載せる原稿ですが、貴君の先般校長先生宛に差出された書翰——あれは貴君の所信なり近況なりが見られる尊いもの故載せさせて頂きたいのですがいかがですか。・・・下略

12月15日 父へ

前略 抗議も殆ど終了し、今や全く自由研究に任され真の楽しみに浸っております。昨14日は義士祭にて幾多先哲の義士評論を精読しましたが、鳩巢・埤門の三哲の説には最も服し、徂徠・春台の邪論世人を欺く大罪あるを痛感しました。死して道義を貫いた良雄等の義挙の因って来たる所素行にあり、これを正評した埤門学と共に維新を導きたるを思ひ合せ、日本学の一源流たるを実感すると共に、道を外れたる学の大罪を考へました。夜の泉岳寺は焼香の煙墓所を覆ひ、軍人・生徒の群陸続として絶える所がありませんでした。下略

12月22日 父へ

前略 今年中は雪も見ず火鉢も不要ですが、治に居て乱を忘れざる心構えは十分に出来、春三月試験中に於ける一家の不幸さへ考慮に入れて、身体と云はず学業と云はず、出来る限りの注意と対策とは構じつゝありますから、御安心下され度(た)く、寧ろ皆様の御自愛と祖父への看病の程願上ます。

毎日図書館へ通って居りますが開館は28日まで来月は8日からです。図書館は連日満員で仲々張合ひのあることです。

冬休中に既に習得せるもの及び重要な古写本・版本は是非手に取って系統的に研究すべく発願し、有職故実関係は殆ど一覽しました。別に佐久良東雄先生の小論文と勾当内侍・女房奉書を中心とした内侍司の歴史をまとめることにしてあります。其他は平泉先生の著書を読むこと、ノート整理とそれに付随した研究に全力を用ひたいと考へてあります。卒業論文は色々なヒントを与へられて来ましたが、神道思想の発展を取上げる方向は必然として変わりません。最近では経済・社会方面の研究との併用・からまりが大切と考へてあります。

次に義士に対する徂徠の処置に就て、法学の立場から当然だとの御意見に関して、為_レ法伏_レ誅の事ならば当然ですが、私が批判するのは彼の四十六士論です。徂徠の論の要点は、第一に義央(よしひさ;吉良)を君仇となすことの不可なること、第二に長矩(ながのり;浅野)の不義なること、第三に四十六士は君の邪志を継ぐ故に義ならざることです。これらの点は既に先哲によって否定されてありますが、この様に全く逆の論を展開したのは彼が形式論理者であり、道義に暗く武士道の何たるかを理解しなかつたからです。その上彼は法学の立場からの処置したのではないことを示す文献があります。法学の立場に立ったのは林家の方であつて彼は現実的な便宜主義に立ってゐるに過ぎません。

彼は義士論に於ても処置に就ても全く誤つてゐること明瞭です。人物の評価はむづかしい事で表面の所業のみを見ず深くその根本精神を把握して始めて可能だと思ひます。

今年も数日で終わりますが、明治神宮の有馬大将の好意により、31日夜から1日未明にかけてかがり火奉仕に参加させて頂き、神宮で新年を迎へることになります。

12月25日 恩師 小川五郎先生へ(小川五郎先生遺文選集より)

永らく御無音に打過ぎ甚だ失礼致しました。先生には弥々御健勝にて御繁用のことゝ拝察して居ります。私も健康で、最近では予想以上の好天に恵まれ、或は出て或は籠つて研究の楽しみに浸つて居ります。今冬は田坂兄と当地で越年するつもりで御座います。

二学期には種々な事に遭遇し、屢々(しばしば)夏休に頂いた御教訓の痛切に喚起せらるものがありまして、赤裸々に所感を述べて御叱正蒙りたいと考へたことも再々ありました。しか

しいつも勇気によって遂に今日に及びましたこと甚だ遺憾に思っております。

入学以来私は平泉教授も思想的影響を受けること頗る顕著なものでありました。そしてその思想は一部の人々から強く攻撃され、私も屢々注意を受けましたので、一步退いてこの思想を検討し、如何なる点に於て非難に値するかを吟味することは、私にとって極めて大きな問題となり、その結果必然的に私はその史観の研究へと進んで参りました。

かくて10月からベルンハイムの実証主義史観・西田博士の文化史観、特に「転形期の歴史学」を中心として唯物史観を勉強し、これらとの対比に於て平泉教授の史観のみならず、現代の各史観に於けるその位置又平泉教授の志とされる所も漸く明かとなり、少なくとも己を滅して祖国の命脈を一身に担ひ、失はれたる祖国をして真の祖国たらしめんとされるその熱意に於ては——それが決して道学者的でなく、最も深刻に考へられ実践されつゝある事に於て——大いに敬意を表すると共に、この限りに於てその史観は必然的であり、最も純化されたものと考へられて参りました。

勿論未だ充分理解出来て居りませんが、国史に関する限り、又日本人として現代に生きんとする限定的地盤に立つ限り、西田博士の文化史観は明らかに否定されねばならず、ベルンハイムの史観も日本に於ける流転の実相は認識し得ても、これを貫く絶対的不易の精神は把握し得られません。

どうしても日本の伝統的史観を生かした平泉教授の史観に指を屈せねばならぬと思ひます。最も妥当的に考へられるベルンハイムの史観さへ、日本に妥当しないことはそれが遵奉者(じゅんぼうしゃ)坪井・久米両博士に於て最も明らかに実証されてゐる处ではないでせうか。私達に於ては「死学」も又日本国民としての自覚を危うくする如き史観も執るべきことではないと思ひます。此の点に於て一応平泉教授の史観を是認したいと思ひます。しかし吾々の史観は個人として又世界人としての自覚を否定するものであつてはならぬは言を俟たない所であります。

今平泉教授の史観を述べる必要はありませんが、史学理論としてはその弱点を見出し得ません。唯同教授の現実的把握の仕方からするその説き方に於て非難がなされるのみとだと考へます。同教授は、歴史は自由の人格が永久にわたる創造的開展の世界であるとし、それには二つの大切なことがある、即ち歴史は変化發展するが、今一つ極めて重要な、歴史は即ち復活なりといふことであります。

かくして歴史することが最も重要な問題となり、これによってこそ現実の地盤に於ける古と今との純一的関連は全くなり、歴史は一の精神の展開となるのであります。かくて日本精神の深遠なる相嗣、無窮の開展即ち日本の歴史こそ歴史の典型的なるものとなり、こゝに於て自らこの伝統につながり、悠久の過去に遡つて歴史しつゝゾルレンの世界を生々發展せしむること、而して永世の確信を得ること、ここに最も重きを置くのであります。こゝに於て唯心的になること、又変化發展の実相の探求を軽視し勝(がち)になること、これらは注意すべきことと考へます。

次にこの史観は国史観で自国の歴史に於てのみ真に歴史する事が出来るのみとなり、又諸外国の歴史は不完全(革命がある故)なものが多いと云ふことになって、国民思想以外の分野に於ては独善になることと唯心的になることを防がねばなりません。同教授の史観は大義

を絶対の価値とする道の学でありますから、革命を許容する史観に絶対反対をして居ます。日本の道を絶対とし、これによって他の思想を批判することになりますから、大義と華夷の明辨が要求されます。

従て一般に他思想を排撃する様に解されますが、これは同教授の本意でなく、外国思想を止揚し、自由に駆使するに重きが置かれて居ります。しかし大義の伝統を重んずる所から必然的に師道が厳重になります。封建的として非難される所ですが、道を求めんとする限り当然で他人を排斥することにはなりません。自ら限界のあることですが、道義に関する限り絶対に信じていゝかと思ひます。又革新の原理を国史に求め、武士道の復活を要求する、右翼とされる所ではありますが、この位の気魄は必要であり正しいことだと考へます。

以上が世間から非難される点に就て私の考へる所ではありますが、私としては更に一層深く反省熟思しなければならぬと思つて居ります。真に学問を愛し現実を洞察し、至誠を以て貫くならば、決して軽薄な妄動ともならず道学者にもならぬと考へます。同教授の史観にも人格にも誤はない。唯吾々が本当に真似ることに於て誤りとなると思ひます。道義を唱へることは最も大切なことと思ひますが、現実や学問的基礎を離れ、足地に即(つ)かざる論をなすことは厳として警(いまし)むべきで、科学的精神・実証主義・現実の把握は極めて大切だと思ひます。と同時にこれが真実に行はれることは学問の權威の爲非常に大切なことだと考へます。

私は全く異なつた以上の史観の中を屢々暗中摸索致しましたが、遂に安住の地を見つけ得たのは「歴史と体験」の中でした。先生の史観こそあらゆる史観の弊を救ひ、その長所を集めて最も包括的総合的に組立てられ、しかも不思議にぴったりと中庸を守り、而してこゝにこそ最も進歩的積極的な力が動いて居ります。而も一見全く相反する要素が全く一に純一融合されてゐることは驚くべきことで、やがては今少し浄化され純化される事を信じて居ります。

今先生の史観を充分理解せずして云々することは甚だ失礼では御座いますが、これとの比較に於て同教授の史観を見たいと存じます。先生が「自覚せられたる生活」を基準として居られるのに対し、同教授は「自覚せられたる生活」とは人倫の生活に外ならぬ、人倫の最大なるは忠であると倫理に重きをなされて居るのです。これ以外に本質的な差異は無い様に思ひます。

この点から見れば先生が包括的で視野広大、不偏不党なるに対し、同教授は深刻で又最も重大な価値を狙つては居られますが、偏狭は免れません。先生も一つの立場としては同教授の立場をお認めになることゝ存じます。要するに人生の解釈法にあり、道義を以て全人生を統一した所に同教授の特長が有り、又既に固定して動きの取れない憾があります。この点に於て人生をその儘にして居られる先生の史観に無限の味はひを感じずるものであります。そして私は人生の最高自覚を先生と同じく道学的色彩を絶した日本精神の実体なる「あるがまま」の「まこと」に置きたいと考へて居ります。

以上大変長くなって失礼で御座いましたが、科学性を失ふなどの御教訓は痛切にしてこれほど穿つた言葉はないと洵に有難く存じて居ります。平泉教授に従ひつゝも全く対立的な分野に眼を注ぎつゝ、先生の立場に帰り、科学性によって真に史学の偉力を發揮し、現実には於て真面目に歴史することが最も純正なる態度であると確信して居ります。

本年も後数日に迫り、顧みて考ふる所頗る多いので御座いますが、今日はこれで失礼致します。不意の寒さも襲来することゝ存じますので、何卒御自愛の程願上ます。

上田勝彦

12月25日

小川先生 玉案下 (相手を敬って、手紙の脇付に使うことば)

12月29日 父へ

晦日正月に新社務を控えて彌々(いよいよ)御繁用の事と存じます。当地では今だに好晴を保ち、商店街の飾りつけ住宅の門松とさゝやか乍ら年の瀬の雰囲気に満ちて来ました。一昨日有難く20円受取りました。早速丈夫な袴を5円50銭にて購入しました。炭や菓罐も買ひたき折とて仕合せて居ります。

先日来田坂兄の就職に関し共に憂ひて居りました所文部省企画課に採用決定しました。文学部大学院を含め六人の一人です。兄の卒業論文を一読し大いに得る所がありました。一ヶ年を回顧、人間三日見ざれば刮目して待つべし、一年して尚変わるなきは最も恥すべきこと、更に一段の進歩を期します。

昭和14年

1月1日 藤田鴻輔中将より

前略・・・愚息将来に就き誠に御同情ある芳墨(ほうぼく;書状)に接し感謝仕候(つかまつりそうろう)。魯鈍者にて糞土朽木と思ひながらも捨てられぬが親心 御隣慰願上候 下略

1月3日 父へ

皆様も御健勝にて新春を迎へせられ大慶至極に存じます。私も明治神宮に22才の第一歩を踏み出し意義深き篝火(かがりび)奉仕を仕りました。弦月空に淡く寒風膚を刺して絶えざるの時、或は篝火の炎に見入り或は星の瞬く空を仰ぎ、心を養ひ固むる所甚だ多かったのでありますが、夜前から尽きざる参拝者の中には、篝火を以て煙草の火に供し、甚だしきは焚火として尻を温むる如き者あり、不快で反省を求めざるを得ない場合もありました。

されど流石に事変下帝都の面目躍如たるものもあり、規律ある団体の行進にも、さゝやかな家族連れにも緊張の色一入(ひとしほ)深きものがありました。五時社務所にて雑煮を祝ひ、御守・紅白の菊の御紋の菓子・明治天皇御製・昭憲皇太后の御歌・明治神宮参拝の栞(しおり)等々の賜物あり、宮司の挨拶もよろしくあって、洵に元旦に相応はしいものがありました。臈(やが)て宮城を拝して帰宅しましたが、徹夜の疲れで精神爽かならず、二日の朝湯に汗を落して漸(ようや)く我に還ることが出来ました。

2日3日は快晴にて二・三年始廻りをしましたが、市民はこゝ数日休息と娯楽の裡(うち)に空しく正月を送るらしく思へます。正月の和(なご)やかさは尊ぶべきも正月の正月たる所以はそんなものではありませんまい。一般市民と対比して考ふべきは貧民街の正月です。農漁村の一部もそうでせうが、実際に歩いてみて感ずることは、単に同情的に考へるべきでなく、その悲惨さは重大問題であることです。彼等の救済を一步誤れば共産主義・暴力主義勢力となり、近年馬脚を現し来たったユダヤ主義の乗ずる所となるでせう。これが解決は義によって利を制する——大義に立脚する新日本経済体制の樹立以外にないでせう。それは義と利との戦を必然とします。私は年頭に当って自己の運命を予感しました。私の一生は悲劇的であ

らう。命をかけてその努力を水泡と化してしま一生であらうと、それでよい、但し日本人として永遠の生命を得たいと。下略

1月18日 父へ

大雪の由ですが当地は相変らずの好晴続きです。大国隆正の事父上の鋭い眼識に喜びを禁じ得ません。・・・八紘一字にしても祝詞や大宝令を一貫し幕末に最も強く発現し、特に復古神道に於て最も雄大にして純乎たる現れを示しています。・・・

色々な便りを綜合してみるは、私は三百里外に虚名を馳せてゐるようですが、洵に不本意千万です。人の評価は意に介せざるまでも自ら伝家の宝刀は人に見せるべきものではない。正に抜くべくしてその偉力を發揮すべきで、平常は存在を忘れられるか、三割四割に低く評価されるべし、真に快刀が必要なれば、私を世間から隠して置くべきです。・・・下略

1月30日 父へ

東京は全くの上天気続きで、既に春の気分がほのみえて居ります。身体の健全なせいにか此の冬は全く苦勞知らずの儘(まま)に過ごし、1ヶ月後試験に向かつて本格的な準備を開始しました。殆ど半月の努力を以て完成した佐久良東雄先生に関する小論は幾多の改修を経て漸く昨日脱稿しました。小論は一流の論文に比し余りにも幼稚であり単純であります。過去に於ける二・三の小論を貫いて流れ来たった一の精神が遅々たりとも発展の一途を辿りつゝあるを眺め、喜びと自奮の情を禁ずることが出来ません。この小論は国史研究室の論文集に収められ、臆(やが)て若き日の思出となる事を望んでゐます。

新聞で明かな如く東大問題は遂に行くべき所にゆきました。これは単なる経済学部、更に東大だけの問題ではありません。日本国の命脈を考へる者にとっては単なる関心事では済されません。こゝに現代日本思想界の最も根本的且露骨極まる争闘の縮図が見られるのです。

私は此の事件に憤激して自己を忘却することはありません。しかしこの問題の有する重大義の判明につれ、冷静に事態を見究め自己の問題として深く考へねばならぬと思ひます。土方教授の行き方には同情に価するものがあります。しかしその行き方も日本学の根底に基礎を置いたものでない。今や大学は壊滅を必要としてゐます。しかし是が再建に当たる面々の指導精神を見ると更により以上の不安を感じざるを得ません。

要するに現在国家の上層部には真実の日本人が乏しい。従つて此の問題の解決即ち日本思想問題の解決は決して正大にはなし得られぬでありませう。更に重大関心事は支那に於ける和平救国運動です。最も責任ある人々に於て未だ此の運動の正体さへ把握されておらず、既に妥協的な考へが持たれてゐることです。

和と同一異なる如く解決と妥協とは違います。彼等は何を以て解決の指導原理とするか、畢竟それは妥協に過ぎない。今になって日本学・皇道精神云々はおかしい。既にこの大道に基づいた具体的な方策が出てゐねばならぬ。真に支那をして本然の支那たらしめることであり、その道は一つの道義しかないでせう。妥協は一見良策に見えるが日本をも支那をも欺くもので、結局信を失うのみでせう。下略

2月16日 熊本隆治大津中学校校長より

前略・・・去る2月3日例年の通り、山口市武学生養成所に於て招宴有之、藤田閣下より色々と貴下の事ども御話有之、なつかしみ居られ候事、聞く小生も亦嬉しき事限りなく存

候・・・只今平泉先生著「万物流転」披見感無量に候・・・屢々巻を覆ふて感激を楽しみ申候、遂に転じて直接教を受けつれる貴下の事をども思ひ出て、ペンを持ち候、洵に幸な事と存候、下略

2月18日 恩師小川五郎先生より（去る12月25日小川先生への便りの返事）

雲の動きもどうやら春めいて来た・学園もあわただしい去来の空気が生じて来た。一新の春に近い。昨年年末の君の手紙興味を以て読んだ。

歴史の本質に就て真剣に考へねばならなくなった君の魂の成長を僕は衷心から喜んで居る。歴史は視るものだ、そして考へるべきものだ。最後には実践すべきものであると僕は確信して居るから、その第二過程迄君は進んで来た。これはすばらしい魂の飛躍である。さて僕はこゝにあの手紙に現れた君の思索について簡単に批判的な感想を述べてをかうと思ふ。

君が平泉教授に師事しその思想的人格の感化を受けてその歴史観の究明に志したのは正しい学究的態度であった。君はそれによって大きな収穫を得た。その上君の科学的精神に磨きをかけることにも成功した。

君がベルンハイム流の独乙史観に満足し得ない気持ちは僕には充分理解出来る。それは独乙人と日本人との性格的心理的差から来るのだ。又西田史観を肯定し得ないのにも同感できる。それは世界観人生観の把握態度の相違にも素因するからだ。この意味に於ては君の平泉史観への特に史観の根本精神への共鳴は正当であると信じて居る。と同時に亦そのメトード（曖昧な直観から明晰な概念に到る指導法）に対する君の批判も正当である。

僕をして簡単に云はしむれば、平泉史観は教授自身が云はれる如く歴史的眞と歴史的実との対立分裂の上に形成されて居はしないか。云はゞ歴史自体と歴史的表現乃至（ないし）歴史的認識の混同を生じては居ないか。即ち教授の立場は中世的世界観から開展である。徳と不倫との対立による歴史の把握である。これは明かに歴史の倫理への敗北である。歴史は道徳を説く為に利用され倫理の奴隷を以て満足すべきではない。

歴史は凡ゆる学問の背景となり指導力となり又源泉とならねばならぬ。僕は歴史の勝利を確信する。歴史はその凱歌を高らかに挙げねばならぬのだ。その為には、まず「中世」を否定しなければならぬ。歴史に於けるルネッサンスを成就せしめねばならぬ。かくて僕は歴史に於ける伝説を斥けて、その実証精神を重くみるのだ。

しかし今日僕達の成就せしむるルネッサンスは嘗てのそれでは絶対にない。それは新時代に即した歴史的に発展したルネッサンスでなければならぬ筈である。従てそれは実証のみを主眼目としてはならぬ。換言すれば眞のみをイデーとせず実との一致に於て把握し体験に高められ情熱の源泉となってゆかねばならぬ。知性と感性の完全な一致の上に即ち実証と実践の融合の上に確立した史観こそ、今の僕の求むる唯一絶対のものである。それは中世でなく古代であり、親房でなく宣長であるべき筈だ。僕の結論はこれだ。こゝに僕は平泉史観を廃棄し排撃するのだ。同時に西田史観にも同じ難いのだ。

鳴かず飛ばず雌伏十年、僕の内部にも飛躍の力が満ちて来た。羽ばたきて春天に飛翔する日も近い気がする。聖戦下に吾々学徒のなすべきことなさねばならぬことは多くある筈だ。まっしぐらに祖国愛に燃えて、拓けゆく処女地めがけて進軍しようではないか。道は開け、夜は明けてゆくではないか。君の精進と健康を切に祈る。18日ひる 小川五郎 上田勝彦君

3月6日 熊本校長先生より

前略 陳者 (のぶれば ; さて) 先般日本思想史プリント御恵送にあずかり一読仕候、読渦中図らずもさきに小生疑問と致し居ると同じ様な事に当面致し、貴下の御所見相伺度存候、夫 (それ) は水戸の佐藤一斎の言志録一読致居候節左記の一節に行き当り申候・・・略・・・之れ全く禅讓放伐の思想にして、民約論の説と軌を一にせるものと存候・・・中略・・・学兄の御意見如何・・・後略

3月15日 父へ

昨日試験を終了しました。初めの予定を変更して十課目受験致しました。試験前の事件の為準備に支障を来したからです。最初のうちは健康もよく、準備が充分でないといふ自覚から却って意気軒高、予想以上の答案を作成し得て、そのよって来る所に深く感謝して居りましたが、7日に種痘をして発熱し、又幾らか身体の衰へも見え、11日後輩等を迎へてその帰途大雨に遭ひ、遂に風邪に冒される所となりました。しかし直接試験に影響したのは最後の14日の西洋史概説だけであつて、病軀を押して受験し乙を承知の上で答案を提出しました。今にして考ふれば強ひて提出する必要はなかつたといふ気がするのですが。

評点は全く予想出来ませんが、一年の時には甲の取り難い事は田坂先輩の例に徹して明かでありませう。それは学年制でなく、一年も三年も選択して受講する単位制になつてゐる為です。成績はともかく、大学程愉快で張り合ひのある試験を受けたことはないといふ気がします。今少し準備に余裕があつたなら、本当に自分の氣にいった答案が出来たであらうにといふ事だけが残念です。

11日に養成所で私の後をやつて呉れた河野君を迎へ、昨日は吉地君が上京して来ました。二人同じ宿に泊つて呉れたので仕合はせてゐます。夜出歩くのが苦痛故思ふ程世話が出来ませんが、二・三日中には全快すると思ひます。吉地君は18日まで試験があります。試験が終つたならば直ちに歸し、私が発表までゐて合否を打電してあげたいと思ひます。下略

3月20日 父へ

神殿屋根替事業の為弥々御繁用御苦心の事と存じます。私も略 (ほぼ) 健康を回復し、残務整理と新計画に心忙しく暮して居ります。昨日農学部入試発表あり、吉地君は第二志望の水産科に合格しました。一日後の発表であつた為、吉地君もこれを見て歸りました。試験中、日中は先方不在の為、夜はこちらの苦痛の為、仲々面談が出来なかつたので、昨日発表を待つ間各地を案内して色々話しました。

今一人は経済学部ですが、発表が22日か23日になりますので、打電後急遽乗車、山口に挨拶しただけで歸省致します。色々後輩の世話をしてみ、入試に対する考へ、学問に対する態度が根本的に違つてゐて考へさせられました。下略 (以上長谷川方から通信)

4月11日 元武学生養成所生徒中原信一より

春の休にも歸られなかつた様ですが、先生の事ですから相変わらず猛烈に頑張つて居られることとせう。手紙を書きながら、先生が未だ山高時代の頃を思ひ出して懐かしみを覚えて居ります。私もやつと今年から山高生になることが出来ました。文甲です。下略 (新下宿小石川区戸崎町14 横尾矩司方宛)

5月6日 父へ

昨日試験成績発表、同封の成績表の通りであります。甲 7 科目乙 3 科目で一般よりは良好のようであります。甲 3 点乙 2 点で平均 2 点 3 分以上が甲で、昨年度は 2 点 7 分の甲となる訳です。そして 21 科目の平均と論文との平均が甲となれば可成り優秀な成績で卒業出来る訳です。・・・中略・・・

唯残念なことには乙 3 科目を顧る時、今少しで全甲を期し得たのといふ事であります。和田教授の支那歴史地理・入沢教授の教育史概説は非常に困難なりとの定評のある処、しかも一年でこれに応試したのは少し乱暴ではありましたが、これとて決して甲の取れない筈はなく実力不足を自省せざるを得ません。

しかし乍ら平泉教授に於て甲を頂くもの僅少で大部分が乙より丙が多い事を考ふるならば、いささか師説を体得したる所あるやにも察せられ喜びに堪えません。勿論来年は全甲を期して居り、論文への基礎準備をも完成して置かねばなりません、私がかく学問の道に進み得る所以を考ふる時、唯感謝の仲に報恩の誠を致さんと心に深く期するのであります。下略

5 月 27 日 日本女子大鳳泉寮原村延子嬢より

突然で失礼でございますけど、明日の山口県学友会には本校の学生は都合により・・・舎監命令・・・全部出席出来かねますので、取り急ぎ御通知申し上げます。詳しいお話を申上りたいと思ひまして、先程防長クラブと毛利邸の方に御電話してみたのでございますけれど、どちらにもお見えになってみらっしゃらない御様子でございましたので、失礼ではございますが、文面を持ちまして詳しい内容を申し上げます。下略（速達）

5 月 28 日 熊本大津中学校校長より

前略 一般上京の節は態々（わざわざ）お迎を戴き御来訪を辱（かたじけの）うし御親切の程深く感銘仕候（つかまつりそうろう）。生徒等も同窓先輩の頼母（たのも）しいお姿に接し心中必ずや発奮し候事と存候。22 日午后も御来訪下されたるも先約有之、時間なく洵に残念に存候、中下略

11 月 17 日 熊本校長先生より

前略 「東亜新秩序の建設」洵に青年の心躍る数文字に候・・・中略・・・根本精神は皇道精神と確信致し候処、皇道精神は知的究明にては未だ尽すこと能はずと存候、必ずや学説を超えたる絶対境、天照大神の御先を体認直観したるものでなくては相ならずと存候、君大中の先輩として愈々御研鑽御修養願上候。

今般陸士予科合格、貴下と同じ東京生活に入るもの五名、御面接の機も有之（これあれ）ば御激励下され度（たく）候、尚貴下御寄贈の金円を以て「すめらみくに」「概説日本文化史」校友会として購入仕（つかまつり）候

12 月 15 日 学友会新坂斉昭より

来訪都合の問い合わせ（寒河江方上田宛）

昭和 15 年

1 月 14 日 父へ

着京後、靖国神社・明治神宮・松陰神社に参拝し宮城を拝し漸く記念すべき大いなる年に向つての態勢を整へる事が出来ました。二千六百年号といふ記念すべき卒業論文を立派に書く

目途、こゝ一・二ヶ月の努力でつける積りです。しかし己一個の学問の問題よりも切実深刻なのは国家の現情です。

政変と云う表面の問題よりは是を余儀なくさせた経済問題の実態です。茲(ここ)で万一日米通商関係が切れる事になれば危機は避けられず、行きつく処は日本の支那からの退敗か革命的内紛かの何れかを免れ得ないでせう。日本の弱点を知り抜いてゐる諸外国は漸(ようやく)く態度を硬化し始めると同時に陰謀の手を伸ばして来ています。

近衛公を初め誰一人危機打開の自信がない由です。私は学問に最大の努力を傾けつゝも事態を直視し万一の時は分を飛び越えても起(た)ち上がらねばと思ひます。9日田村閣下を訪問しましたが不在、奥様が親切で改めて通知する故是非らいほうをとの事でした。お世辞にしても有難いことです。

最近、祖父の亡霊を夢中に感じました。何か祖父に心残りはなかったでせうか。私達の今日あるは祖父の苦しい一生の支えあつてのことです。正しい礼を以て祀るは私達の重要な務であると思ひます。

1月15日 田村元一中将より

扱(さ)て、山口は折角御来訪被下候(くだされそうろう)も生憎(あいにく)不在にて失礼仕候、来る19日は御来遊被下度(くだされたく)、御待ち申上候 後略

1月20日 田村元一中将へ

愚生国史を学ぶこと既に二年、古今の史実に徴し、先哲の言動に観、以て国史の原理を探り、我等の拠処を求む。然して現実に直面すれば、盍(なんぞ)感なき不能候、然れ共事是 机上の論 書生の空論を不出処 識者の批判を乞ひ奉る所以に御座候 此意より 過日 皇国の大事に就き 最も根本的切実の指導を得るに至らざりし事 甚残念に奉存候 然れ共 更に顧るに 期する所高くして手未だ届かず 未だその段階に不達を悟申候 国家の大事軽薄之士の軽々に不可論処なるを 又古語云 儒生俗吏安知時勢 知時勢者在俊傑 の一句を想起仕 汗顔自下能止 覚申候 是第二の反省に御座候 然共志は賢愚を不問益々真志を励まし 基より努め 以て道に徹し 皇国命脈の維持に任ぜずんば不可止候 長々と蕪辞を連ね 尊眼を穢し奉る偏に御芳志に感激せる所以に御座候 厚く御礼申上候 尚他日参上の折は一層の御指導御叱咤を賜度御願申上候 末筆乍失礼御奥様に宜敷御伝言被下度 此段御願申上候 情事多緒 禿毫之能尽す処に無御座御炳亮奉^近祈(欠辺不明)候 恐惶謹言 上田勝彦拜 一月廿日 田村中将閣下 印坐下(欠辺不明)

2月23日 叔母山中未子より

松子上京見物に就き、支障少き時期の問い合せ

3月14日 父より

前略・・・山中松子さんより昨日上京するからといふ通信に接した。・・・お前も松子さんも若年同志であるから、互いに人格を尊重しあやまちなないやうに自重自愛されたい、お前も卒業を目前に将来ある身、松子も養子を採らねばならぬ身であるから・・・下略

3月17日 父へ

大学入試も一段落で、此の2・3日有為な後輩数人と接する機会を得ました。国史にも新生一人あり、小川先生の紹介状を持って尋ねて来ました。三隅の小田も倫理に入りました。

平泉先生は19日満州国皇帝への国史御進講のため御出発。世間は未だ先生を理解せず、神がかりととか気狂ひのと白眼視して居りますが、日本自らが日本の伝統に生きなければ東亜建設の不可能なるは、次第に明になって来ませう。

松子さん上京に関する一応の御注意は其儘率直におうけして置きます。しかし何人でも私を一個の信ある人間として総てを托される場合、私は自己の責任を忘却する程の無自覚な人間ではありません。又道義を以て自らの信条とする者が、実にその道義を以て批難されることは最大の恥たる事を知って居ります。又、同伴者を要求する用意を怠って居りません。下略

3月18日 小川五郎先生より

おたよりありがたう、相変わらず元気の様子、何よりです。小生も昨日から入試問題の採点で四苦八苦して居る。昨日今日山口は急に寒くなって雪さへちらついた、春も容易に来さうにない、月末には東京か九州へゆきたいと思ってをる。場合によると大阪京都でごめん被るかも判らぬ、だがその場合には夏休に上京間違ひなし。御大事に

3月31日 父より

本日教員移動により吉地校長桂冠後後任小田校長、教頭となって益々任務重大、鳥居建立の起工式四月三日の吉日に行う。その題字を松崎寿三（局長及医博の叔父）氏を介し湯浅内府に頼んである。就ては最近一度訪問して御意向を尋ねて呉れるように。絹又は紙は田舎では入手困難、如何致すべきか相談して購入して差出すやう取計ひたし、・・・下略

4月3日 父より

熊本大中校長宇部中校長へ御栄転、惜別の情禁じ難し、今年紀元節講演を社頭で願ったこと、又昨春桜花の下で撮った写真が永の記念である。御挨拶をせよ。記念品料等は便宜こちらより差上げる。同窓会等より話あれば父へ連絡せよ。今日華表（かひょう：鳥居）起工式挙行。深川校長をつとめ大多忙なり。

4月12日 父へ

本日帝大60周年記念式あり。私も初めて大学の大学たる所以を実感しました。時局がら総長の方針披歴は各方面より注目され、さしもの大殿堂も立錫（りっすい；わずかのすきま）の余地なく、その時の学問と人格の発する香気に全く圧倒され陶醉してしまひました。

日本人として、特に田舎出の貧乏書生として無上の感激と幸福感に打たれ、学問を通し人格を作り真の国士にならうと決心致しました。御真影を正面に天下の大学者、七千の理想に燃ゆる学徒がかもし出す雰囲気は全く口舌に絶し、皇恩と親の恩に感激を催すのみです。

式後校内大公園に於て野天の出店に我も我もと食ひ放題の歩みを運び、今やつと下宿に帰りました。総長の話は今一度熟読翫味して立派な学徒としての歩みを運びたいと思ひます。

4月14日 山中松子より礼状

東京での風邪をだらだら三見まで持ち帰りました。在京中は一方ならぬお世話様になりました。お約束の御本早速に有難うございました。下略

4月15日 父より

祭神関係上「宝祚之隆天壤無窮」がよろしいか。紙は唐紙半折、寄附者は岡田忠治郎及其の兄弟、一国一社は学問的には俗説で、山口の大神宮に対比していふ。ともかく古社で大神宮

の裁許状多数現有

4月16日

朱光会より

来る18日午後7時より新会員獲得の件に関して種々御相談致し度く、定刻御集り御願申上候。集合場所、曙町21番地

5月6日

後輩原勲より

さて貴兄(きけい)より不肖私ごとき者にお目をかけ下され御鄭重なる御勧告を辱(かたじけ)のう致しましたことは、私にとっては感激の至りでございます。省みて自分の身を見る時実に慚愧にたへないものを覚えます。

しかし私は貴兄の御期待にもかゝらず入会を拒否いたします。私は平泉先生の御著書を読んで一面賛同の感を禁じ得ないとともに他面先生の御考へ——と云ふよりも寧ろ現実に於ける先生の御考への具体相乃至(ないし)雰囲気——に対して凡(およ)そ相反した考へをもつてゐるからです。・・・中略・・・

平泉先生は武士道を説かれました。しかし私は町人道をとるものです。いやしい町人救ひがたき町人、しかし私はその中に真実を汲取りたい、私は恒(つね)にいやしきもの貧しきものゝ味方でありたい、救われ難き者の友として生きたい、これは僕の目標です。

武士としての自らを高くするすることは私には出来ないのです。・・・中略・・・貴兄の御期待にそむかねばならぬ私を御許し下さい。そして今後とも先輩として変らぬ友情と御指導とを下しますやう御願ひします。不肖私は愈々研鑽修養以て御期待の万一にそふ決心でござゐます。

5月10日

宇部中学校長熊本先生より

前略 過日は御芳墨に接し御友情深く感銘仕候。突然転任を命ぜられあはたゞしき日を過し候。大津中学には未練多く、大津の人々とは別れ惜しく心残り申候。教育者には栄転は無之と存候 下略

5月上旬

山口県学友会より

昭和15年春季大会案内状 日時 5月19日 午前9時 講演者 木戸幸一侯爵
余興 日活映画“海援隊” 演芸 二種

5月中旬

福岡初枝嬢へ

先日は山口県学友会の事に関し、突然お伺し失礼致しました。中略 私は久しきに亘る毛利家特別の恩遇に報ゆるため学友会に関係し、昨年まで総務の任に当り、本年は卒論等のため総務を辞しましたが、傍より会の仕事を手伝って居る次第です。

従って大会参加者の一人でも多からんことを願ひ態々(わざわざ)お願ひに上がったわけですが、幸にも元幹事の経歴をお持ちとのこととて、甚だ好都合に思っています。宜敷くお願ひ致します。

其後お友達にお話し下さったことと思ひますが、学校の方針もある事でせうから無理に御勧誘なさらぬ様、昨日日本女子大では20余名出席予定者を獲得して居りました所、同校幹事が新生に強制されたとかいふことから問題になり、舎監会議の結果、全員出席禁止になったといふ事がありました。こんな点も御考慮になり、然るべくお取計らひ下さる様お願ひ致します。次に準備の都合がありますから、参加予定者人員を17日までに私に御連絡願ひたく

存じます。色々御迷惑ながら何分よろしく。下略

5月16日 山中松子より

其後お元気で御勉強の事と存じます。私も相変らず毎日を送っております。御多忙の事はよく存じてありますし二月に一度位しかお便り頂けぬとよく諦めて帰って来たつもりですが何時も待つものはあなたよりの御便です。

ケーベル博士随筆集少しづつ読ましていただきました。大変得る所が沢山ございました。中に難しい所も沢山有りまして私など分かりかねる所もありました。こんな御本を読んで行きますと現在の文学など一生懸命読むのが馬鹿らしく思へました。・・・又何かいゝ本がありましたら願ひします。我儘ばかり申しまして相すみません。下略

5月25日 後輩上田孝治君へ

芳翰拝読欣懐（きんかい）に堪へません。先づ貴兄を始め諸兄の弥々（いよいよ）英気勃々（ぼつぼつ）正学に従事されつゝあるを衷心より喜ぶ者であります。小生曾（かつ）て由道会々員に一人として石村先生を始め諸教授諸先輩の並々ならぬ御指導を忝（かたじけな）うしながら、在校中何等為す処なく、卒業後も全く御無沙汰に打過（うちす）ぎ、唯空しく名を先輩の欄に留めるに過ぎず、先輩の語を以て称するに価ひしなかつたのでありますが、因らずもこゝに丁重なる挨拶を寄せられ、愕然たるものを覚えたのであります。

これ実に小生に先輩としての自覚なかりしを示す証左であります。更に云へば小生に真志なく自ら任じ、自ら努むる所なさを証明するものであつて、顧て慚愧に堪へないのであります。しかし乍ら今ここに諸兄の熱烈にして雄渾（ゆうこん）なる志を知ることを得て、翻然（ほんぜん）先輩たるべきことに目覚め、更に却って激励鞭撻される所があつたのであります。此の点深く謝したいと思ひます。

思ふに「由道の精神」を研鑽すると云ひ「真実の道を究め」と云ひ又「純正なる日本精神を把握」すると云ふ、その志は実に学問の出発点であり、特に今日吾等の死力を尽くして努むべき当然当為のことであるべきは多言を要しません。

けれどもそれは同時に学問の結論でもあり、その志愈々高く、その言愈々美にして益々それを得ることの難いことを考へるのであります。而してそれは一片の才智・一通の智的認識を以て解決し得ざるは勿論であつて、知を精にする事徹底的であると同時に根本に於て至純の志を維持し非常の辛苦をなめ、真に古人俊傑に伍するの大勇猛心なくては到底及ぶべからざるを痛感するのであります。・・・中略・・・

道を得るは「師恩友益居多」ですから、これから小生は諸兄を友と呼びたいと思ひます。ここに私はお互に積極的に切磋し鞭撻せんことを期したいのであります。諸友は25日より合宿の由、25日は大楠公陣没の日であります。この日は幕末に於て、志士が楠公祭を行つて志を誓つた日であり、由来有志の者の間に於て今日まで引き継ぎ行はれてゐるのであります。深く考ふるものは当然期する処があると思ひます。どうか合宿に於ても亦平素にあつても益々深刻に御研鑽あらんことを切望致します。下略

5月2日 父より

30日午後5時志賀忠一士卒去、昨1日神葬儀、高橋市長外（ほか）数名の名士参列盛大・・・御前（おまえ）も手紙で悔状を差出しておくがよい。下略

6月2日 弟興へ

海軍兵学校受験の由、思ひ切った決断であると思ひます。文面に非常の決意と相当の実力の蓄積とが窺はれて頼もしく思つてゐる。何をやらうと自分の決意次第である。自己の希望に向かつて懸命の努力を続けて行けばそれでよい。海兵は私の失敗した所、甚だ困難であることを承知の上でのこの大志、決心・覚悟の堅固さに於て不足はない。この態度でつき進めば難関突破も断じて困難ではない。万一不首尾であっても断じて悔ゆる所はない。以下具体的助言部分省略

6月5日 弟興より

お手紙拝受、親切適切なる御助言有難く感激して拝読致しました。先々も宜しく御指導の程お願い致します。さて私が本格的に勉強し始めましたのは5月上旬頃で、はや一月にもなりますがさ程実力が附いたとは思ひません。・・・一週間位前から詳しくプランを樹てました。・・・土日は兄上の御言葉により答案作成等は余分にやらうと思ひます。・・・最近五年の問題検討については気がつきませんでした。早速研究する決心です。 下略

6月10日 父より

・・・大神宮のことを卒業論文にすることは我家にとってとてもよい。神様の御啓示である。十分研究せられんことを。萩にも神明社あり、又神明社でなく天照大神を祀った神社もある筈。国民国体信仰の帰一点。これを明に未だしなかつたこと、寧ろ希異のことだ。

松崎さんのことさう計（はから）ふ。両氏へは深川焼を湯浅様には夏橙（なつだい；なつみかん）を送った。（昭和14年12月25日祖父団三81才を以て他界の死亡通知の上に書かれあり）

6月14日 福田初枝嬢より

前略・・・過日の学友会の時、お撮りしました写真が出来上がりました。たいへんよく撮れてゐますが木村さんの先生振りと私の巨人に大笑ひしました。・・・同封でお送りいたします故御笑納下さいませ。又大津中の方々と共に撮っていただきました写真、預けますならば失礼ではございますが、三枚頂いて下さいませんでせうか。下略

6月18日 母より

・・・承りますれば益々御健勝にて御勉強に御熱心に御勉めなさいませ由一同安心して居ります。先日鳥居の事につきましても容易ならぬ御心配でありました。さぞ御心痛なさいました事と存じます。深く御礼申し上げます。過日齒の痛みにて御不快の由承りましたが其の後は如何なさいましたが御伺ひ致します。・・・次に固成も大分気まめになり数も少々数へる様になり、武男も大きくなってよく遊んでゐます故、御安心なさいませ・・・下略

6月26日 山口県学友会幹事 伴一雄より

只今は御懇篤なる御悔みの言葉洵に有難う御座いました。又愚母死去に際しては学友会より直接御鄭重なる御弔電を戴き、御礼の申上げようもありません。下略

6月29日 上田孝治より

存道館の鍛錬会趣意書並に増田大兄より御知せの趣確かに承諾いたしました。中略 インターハイの方の都合もつきますので、御言葉にしたがひまして、大阪の鍛錬会には是非お世話になりたいと思つてゐます。それに就きまして、同じく由道会の方を共にやつてゐる私の心友が二人居まして、それが此の度の大兄のおすゝめ、鍛錬会の趣意に共鳴して行を共にせん

ことを約束してゐます。中略

特に兄を持たない私としましては誰か敬慕する先輩が欲しいと思つてゐましたが、姓を同じうするも奇しき又必然の同縁と考へ、今後とも宜敷御指導をお願い出来ればと切望してゐます。下略

7月16日 弟興より

・・・最後の5分間を頑張る覚悟です。しかし此度の志願は実際の所が望み薄です。山口にて8月2日体检が中学校で施行されます。宿所は父が志賀はどうかと申されましたが、私はどこでも良いと思ひます。・・・父上が御つどひで、試験は兄上にお願ひ致します。本日28日には勤勞奉仕も終り帰省できます。下略

7月31日 後輩増田正士より

鍛錬会を御無事に且つ有意義にお過しのことと思ひます。僕はどうも失礼致しました。また勇気ができませんものですから、併しあれから考へて見ました所、今の考へでは矢張り朱光会員としては継続しようと思つてゐます。・・・兎に角踏み止まることにしませう。色々とお心配をかけまして恐縮千万です。下略

8月5日 上田孝治君より

大兄よりあれほど御尽力下され、不肖も真情より出席研鑽を約せし千早城存道館に於ける合宿は、心を千々に砕き乍ら遂に時を求め得ず、思ひなくも男子の盟を弊履(へいり)と捨て去つて欠席致し候事、今こゝに御報告申上げる資格もこれなく、たゞ悔恨いたすのみに候

8月9日 叔母志賀みや子より

お手紙を読んでおりましたら、何だか私もお伊勢参りがして見たくくなりました。その昔、私が参りましたのは、今は亡き主人と大正12年の秋でした。神々しかった事しか覚へて居ません。この秋に又よしのをつれて出かけて見ませうか。そして気晴らしに東京まで旅行を延ませうかしら。今日貴方のお父様から旅順からのお葉書が来ました。・・・13日には弟様も受験に来られます。下略

8月11日 父より(牡丹江省寧安青年義勇軍訓練所より)

8月23日 弟興より

拝啓 長らく御無沙汰に打過ぎ誠に申訳御座りません。以来別段変わった事もなく毎日を面白く暮らしております。先ず私の試験の事に就きましては早急お知らせする筈でありましたが、つい今日になってしまいました。

成果は不合格でありまして、しかも初日の数学で見事に振られたのです。詳しくは、二問は確実にやりました。そして或はと思つてゐましたが、発表を身に行き受験番号69は赤インクにて消されており身も心もひんやりとして云ふべからざる感じが致しました。しかし其の後は破れたとは云へ一種の心強さを感じ、世の受験記にある様な絶望感には切実に感じられませんでした。又志賀のお婆さんの絶大なる御尽力には感じ入り、兄上からもお礼のお言葉をお願い致します。

其の日の終列車にて帰途に付きました。折からの田舎道一面の稲原淡い月そして虫の音等一生一度の感じを密め一躍天下の英傑となった様な感じにて力強く帰りました。爾来大いに感ずる所あり一意修養の道にいそしんでゐます。今度しっかり落ち付いて確実な準備の出来

るのを喜んでおります。

本日正ちゃんを三見にやりました。用事がありましたので一緒に正明まで出ました。

新盆のお客は三見の叔母さんと河原のお婆さんのみでした。淋しい盆でしたがみんなでお墓参りを致しました。

御神幸の上り物は麥拾俵参拾五円也です。客事は万事大丈夫に終わりました。其の他変わった事とてありません。一家益々健康にして主人不在と雖も日の出の勢が感じられます。

酷暑未だ衰へぬ折がら御健康に注意してください。敬具

8月23日 上田 興 上田勝彦様

8月23日 母より

暑さだ激しき折柄、其後は御無事に御精励遊ばされます由一同安心致しました。私方変る事なく無事に暮らして居ります故御安心下さいませ。今迄(いままで)もなく御便り致す筈の処何や彼と多忙に取りまぎれ、格別変わった事もなく今迄は盗難もなく病気もなく金銭上のつどひもなく、御報知致す事ありませんのでつい御便も延引致しました様な事であります。

御神幸も留守にかゝわらず過分の神納物がありました。先づ湯本8円河原5円江良5円上郷7円、麥境川1俵後泊1俵下区2俵上川西2俵、(板持2俵別に牛祭の麥1俵)下郷1俵以上の神納物がありました。俵は家の内へ積んでありまして御金は一銭も手掛けずよく納めてあります。以上に付き小崎より酒7升取り1升は川西中村へ持参しました。

御神幸中は酒肴の準備をして置きましたので御来客がありまして直ぐ酒肴を運び皆様に御満足を与へましても不満足を与へる様な事はなく、人手もかゝらず済みました。近頃御酒を求める事が大変六敷(むっかし) くなりましたが末永さんに御心配かけまして取り寄せました。それから盆には三見の叔母様が一人河原のお婆さんのみでありまして三見より御霊前へと立派な長い御灯籠一对10円価格の物をお供へになりました。

次に満州より度々祖母様・子供・私・興ちゃん・正己・固成・武男宛に度々便があります。先日も新満州といふ本を送られました。気候が変わって居りますにもかゝわらず無事で御勉めなられます由安心致しました。御帰宅迄も御無事なれば良いかと存じます。

次に興ちゃんの事13日に山口に行きました際玉子1円計の物を御土産に持参させました。叔母様は大変よく御もてなし下さいましたそうであります。帰宅の節も御金1円を頂戴致しましたそうであります。14日に数学がありましたそうであります。その落ちまして同夜11時頃に帰宅致しました。其の後は勉強に怠りなく暇には御手伝及土俵の草刈を致し、来年楽しみに怠りなく暮らしてゐます。

父上御渡州より毎日正己つどひのない限り興ちゃんと一緒に朝六時夜六時頃に御宮に上り、一人おかぐらを上れば一人は大祓いを奏すといふ様につとめます故御安心下さいませ。

あの紛失の御金七拾円余、正己が祖先の命日を夏休み帳に宿題がある故尋ねて呉れと申しますので祖先の系図を部屋の押入をあけ尋ねました処、木の箱の中にもありました故御安心下さいませ。

次に15日御上京なさいました由それ迄に御金が多くいりました事と存じます故、御金に不自由のない様に父上御上京の節御話下さいませ。御暑が激しくあります故御身御大切に下さいませ。 母 勝彦様

- 8月24日 後輩上田孝治より
 山口より帰宅候所、大兄より御懇切なるお葉書及びテキストの小冊子を拝受いたし折り誠に有難く御礼申上げ候、早速裏山にて天地も照覽せよと拝読致し、心馳せし存道館合宿の趣、目のあたりに覚えられ感激致し候。
 欠席にも拘らず、冊子まで送られて御指導下されしこと身にしみて覚え候。必ずや大兄の御指導に添はずんば、不肖万死に値するものと、今後豊かなる春秋を最も誠に送らんことを誓ひ申して、許されざる不屈の詫言(わびごと)に代へたく存じ候。
- 8月25日 山中松子より
 ……先日正己さんがいらっしゃいまして、お宅の方へもお便りなきとの事、御旅行がお休にお悪かったのではないかと一人心配になりペンを取りました。下略 (9月3日も同趣旨の便り)
- 9月9日 父より
 汽車が延着して4日午前10時無事正明市駅着。出迎を受けて直に学校に入り式に臨む。翌5日は生徒に二回に亘って講演。6日は町役場その他報告の挨拶行、7日は八幡宮社頭にて警防団員の為に報告演説会。下略
- 9月18日 福田初枝様より
 前略 ……過日はお便り並びにお写真お送り下さいまして有難うございました。不躰なお願ひを申し上げまして後で汗顔の思ひでございました。失礼の処は悪しからずお許し下さいませ。学生時代の思ひ出として長々保存させていただきます。
 縦から見ても横から見ても私が巨人振りには恥かしくなって参ります。重広さんは真面目な顔、微笑(ほほえま)しくなって参ります。兄弟のない私には東京での重広さんは失礼ですが弟の様な感がいたし又大変しっかりしてゐらっしゃいますので、在京四年間も、立派に仕上げて下さいますものと蔭ながら安心してをります状態で、貴下より褒めて頂き本当に嬉しく思います。今後ともよろしくお導き下さいませ。下略
- 12月4日 同僚坂本夏男より
 高等学校連終につき御相談申し上げたきことがございますから、御多忙の御事と存じますが左記御出で下さいます様書中御願申し上げます。来る5日午後6時半 塾
- 昭和16年
 1月12日 学友会より
 送別会兼懇親会案内 日時1月19日午前10時
 講演者 貴族院議員中山太一 会場 防長倶楽部 会費3円
- 1月17日 弟興より (佐河江方宛)
 前略 ……冬休にはお会いする事が出来ずして淋しうありました。……私の宇部に帰りました後帰郷され数日にして又遊学されし由、誠にお忙しい事と思ひます。いよいよ私も最後の学期を迎へました。……父上の命令によりさしあたり高工を受験致します。大いに努力して難関を突破する覚悟です。
 ……兄上も今年三月卒業される事本当に我家に取ってもうれしき極みであります。私は3月5日卒業式です。下略

この間 1月7日 静岡県賀茂郡中川小学校佐野英雄氏、9日 福井県坂井郡春江東小学校藤井源二氏より鍛錬会礼状が塾内上田勝彦宛に来る

同日 父へ (曙町 21 原正方で発信)

今朝無事着京しました。山口では志賀さんに大変お世話になりました。二泊しましたが最後の晩は畏友(いゆう; 尊敬する友) 井畔氏をも泊めて頂き更に 15日早朝出発に当っては弁当代として 2円を頂戴しました。山高生との座談会は井畔氏の応接より可成りの成果を収めました。小川先生をも訪ねましたが、その際卒業記念として有名な国学者鈴木重胤の手筆たる軸物一巻を頂戴致しました。

萩に一泊し、まる一昼夜余を費して着京しましたが、山陰線経由であった為非常に楽な旅行を終へる事が出来ました。唯今荷物を前下宿よりこちらに移動してゐる所です。こちらには青々塾・松柏塾の二塾がありますが、私は後者にて厳縮な鍛錬をうける事になって居ます。先づは報告まで。

1月21日 石村忠治先生より

前略 過日は切角(せっかく)の御来訪にも拘らずお目にかゝる機会を逸しましたことに残念に存じました。次の機会を逸せざるやうにと 下略

1月22日 椿マサ代子より

昨日は折角(せっかく) お出で下さいましたのに大変失礼いたしました。又おくにの結構なお土産まで戴きましてまことに有難う存じました。皆様どうぞよろしくお伝へ下さいませ。・・・おくにのお話し色々とお伺ひしたく思っていますからお暇の節またぜひお出で下さいませ。極寒の折りから御身呉々も御大切に遊ばしませ。先づは一筆御礼まで。かしく。

1月23日 防長倶楽部より

倶楽部員懇親会案内 日時 1月25日午後5時半 講演者 海軍少将 中原義正

1月26日 父より

今日はすいぶん寒い日曜日で朝から雪がちら／＼した。終日家に居て文書整理をした。お前も宿を代る等落付いたですか。どうぞ健康に注意して重大時局に善処して欲しい。議会の模様を見ても外交問題を見ても仲々容易ならざるものがあるやうだ。しっかり身体に注意して保健と鍛錬とを程よく調和して行くやうに。校長も旅行より今日は帰られる筈。国民学校の体制をポツポツ調べて行きつゝある。昨日は信用組合の総会があった。田舎には今余り変わったことも無い。家族健康である。1月26日

1月27日 父へ

其後元気にて日々の鍛錬生活を送りつゝあります故御安心下さいませ。鍛錬生活は辛苦の生活であります。是れを経なくては否一生これを続けなくては真の日本人にはなれない事を愈々益々感じます。

帰省の際申上げました通り日本の危局は眼前の問題となりました。一般の人々は時局に対する正しい認識と不退転の覚悟を持ってゐるのでせうか。米国の英・蘭との聯合による進攻が否応なしに迫り日本に先手を打って東亜の死命を扼する外南洋の要地を確保せんとしてみます。これに即応して起る経済的困苦缺乏を当然の事として甘受し、喜んで公に殉ずるだけの心的態度を徹底せしめる事は目下の根本的精神訓練であります。

就職に関しては近く平泉先生から御指示はあると思ひます。何れ御報告申し上げます。二月には各方面の送別会がありますから、10 円程御送金願へれば幸甚と存じます。破屋の事故防寒にお苦しみのお事を思ひます。皆様の御自愛を祈つて居ります。

1 月 29 日

鳥巢通明先輩より

前略 いよいよ御勇健、曉鐘会の為活躍の御事感謝罷候。さて御申越の件（執筆依頼）まことに心苦しく候へ共お引受致兼候、理由如左 二ヶ条 略（上田住所は曙町原正方）

2 月 2 日

上田孝治より

前略 ……さて昨日は多くの御配慮の冊子をお送り下され有難く拝領致しました。同憂の士に分ちて、雪をおしわける大節操大盤石を得るべき尊き資にあてたいと思ひます。下略

2 月 6 日

後輩坂本道紀より

……扱（さて）他日御約束申上候曉鐘の原稿同封にてお送り申上候間、何卒御受取り下され度候、期日に後れ誠に申訳なく存じ居候。下略 上田先輩硯北（けんぼく；添書敬語）

2 月 7 日

父へより

春分と共に急に暖になりました。皆元気です。父は 3 日より 6 日迄満州開拓義勇軍拓殖教育の為の大津郡出身者 41 名を深川校に宿泊させ、その訓練指導員を県から命ぜられました。なかなか忙しかったが仕事の張合はあった。

徴兵検査につき町役場より同封の様な検査票を送附、校医や医務室かで然るべく処置して御急送ありたし。金 20 円、先日別送した、御受取のことゝ思ふ。尚三月にでもなれば洋服その他必要品の金は送る。お金のある所にはあらうが、私の家は目下月給生活者困難の事故（ことゆえ）、節約の出来る限り儉約して下さい。

2 月 8 日

父へ

前略 儲（さ）て一金 20 円也確に入手致しました。厚く御礼申上ます。丁度連日歯医者に通つて居た処、余分の御送金を頂き極めて仕合はせて居ります。連日多忙今冬は殆ど火にもあたらず、刻々に迫る危機の前に命懸けの切磋です。就職は未だ明でありませんが極めて重要な仕事を当てがはれる由、塾頭より承つて居ります。それが何であるにせよ、専門の神道の研究は益々精彩に道義の鍛錬は弥々嚴重に、以て此の難局に処し誤りなからん事を期して居ります。

同日

父へ

本朝塾頭より就職に就ての御話しがありましたので、御報告申上ます。未だ決定的でなく、将来変更の可能性はありますが、先づ東京に於て平泉先生の膝下に勉強する事になったのは略々（ほぼ）決定的で、今の処は一先（ひとま）づ京華中学（小石川）に奉職し更に或は兼ねて大学の神道研究室の副手に優遇されるかもしれぬとの事でした。

これは平泉先生としては私達同僚の中で最も高く重く待遇されてゐる事を示すもので身を顧んで感激に堪えず、期待される処大きく責任の甚大なるを感ずるものでありますが、此点お喜び頂き度（た）いと存じます。

大学よりは更に有利な相談があつても一切これを拒否し、偏（ひたすら）に先生の下で勉強するつもりです。但し未だ遠方にやられる同僚を憚（はばか）り塾内でも秘密にしてありますので、当分は腹中に収めて置いて頂きたいと存じます。又一身の重事に関する通信は一切密封

にてお願い致したく存じて居ります。

2月10日 防長教育会役員石田馨氏より

前略 過日の御話によれば神道方面に志望の趣、御同慶至極に奉存候。此上とも十分御精進祈上候。具体的の御方途（御卒業後の）相承り度、念の為御願申上候。

2月11日 後輩上田孝治より

前略 ……先日……貝島育英会に給費学生を志願致し候所、幸ひ御了承下され……
扱て大兄の御配慮に甘へて受験宿所のことは何卒よろしく願申し上候。未だ不確かに候へ共上京は11・12日頃が適当ならんと考へ居り候。猶不肖の同級生にて同じ受験をなす者一人出来れば同宿致したき旨申し居り候へば出来得れば二人泊まれる場所をと重ねて御願ひ申し上げ候

同日 父より

2月8日付けのはがきは10日の夜帰宅して見た。母が先づ祖母に話してゐたものか。此の子は幼少の頃から人に愛されたものだ……どこ迄（まで）行っても引立てにあふ。帰ってから婆の火燵の中にもぐり込んで寝るなんて昔ながらの赤ちゃんだ、年は24になってと母も婆さんも大笑いすれば固成も武男もわけなくつり込まれて皆が飯台に饒（にぎわ）つてゐる。何事も神意だ朝夕一家一族の文運を祈っている。父の誠意を神も享（う）け給（たま）ふものだ。
山根達郎が出発の時も亦端書でもよろしくと云ふて来た。慰問状一本出しておやり。興ちゃんにも勉強するやう激励状を出しておやり。

2月13日 広島の道友坂本道紀より

暁鐘原稿の件及広島での御楯会紀元節行事の内容通信

2月19日 文学部事務室より

陳者（さて） 御面談致し度件在之候 左記の通り 神道の宮地直一先生の御宅へ（何日なりとも夜分可）出頭相煩し度処也 先は右 宮地先生よりの命に依り 御通知之申入候
昭和16年2月19日 東京帝国大学 文学部 上田殿

2月25日 父へ

其後元気にて勉強致して居ります。相当暖かくなりましたので万事仕合はせて居ります。卒業も迫りましたが、今年から卒業式には父兄の参列を求める事になりましたから、本日案内状が届くと思ひます。御上京の暇もない事と思ひますが、式は3月31日ですから都合がつかうかと思ひます。色々の用事が重なつてゐますから式前後の帰省は比較的困難かと存じます。

昨夜宮地先生の招きに応じて世田谷の御宅に伺ひました。博士からも一番期待され重遇され却って心苦しい思ひが致します。今の所就職に関しても平泉先生のお考へと宮地博士のそれとの間に差異があり、板挟みになつてしまった感じですが、私の考へはどこまでも平泉先生の忠実なる弟子たるにありますから誘惑に引かれず、臆て予定通りに運ぶことが出来ませう。

近日5円計り御送金被下度（くだされたく）御願申上げます。

同日 父より

書留の徴兵検査書類到着。手続完了御安心のこと、家内一同健康、大分春めき野良仕事も

愉快になりました。私は多忙にて暮しております。1日より4日迄卒業生を連れて伊勢参宮の予定であります。証明代等必要の金額は逐次御申越し下され度く、最後のつとめ有終の美を發揮して卒業あらんことを。何れ徴兵検査迄は帰宅しないでせうから、その時点の予定を父より

3月1日

2月25日附の通信正に拝見。卒業式に父兄の参列は誠に荣誉の到りである。百千の卒業式に父兄が参列してはたして参列が出来るでありますか。科を分けて卒業式を、各学部長が挙式されるのでせうか。何れにしても31日とあれば弾丸的に上京帰郷すれば都合がつきさうである。私の一生には又とさうした機会は無いと思ふから、参列して見たい気が一ぱいである。

宮地博士からも招かれて御相談があったとか、宮地博士は目下の所、我が神道界の最高権威神職仲間では名を知らぬものも無い。そこで神道界といふものは学界とはちがって一種伝統的な情実のつながりが多い。そこで将来その方とも交渉を保たねばならぬことが一生には多いかと思ふ、学問が神道であればある程彼神職間の啓蒙にもあたらねばならぬから、宮地先生の感情を損はない様にしてゐて貰ひたい。将来とも指導を仰がねばならぬから、その点よろしく善処されたい。

平泉先生は新聞面等にはそれ程名高くないけれども、国士的高風の偉大さには敬服する所多い。先生に唯忠実な弟子として将来の大成を期するといふので勉強させて貰ふと云ふ率直な考へで居て、他の先生からも疑はれないやうに・・・決して闇中飛躍して賣名とか獵官運動めいたことをして心根を腸の底をきたなく見抜かれるやうなことが無いやうにされたい。あっさり片付けてゐて、決して岐路に立ちて抜差しならぬ信義を失ふやうなことの無いやうにされたし。それは何方の先生先輩に対してもである。

又若し父が上京するとすれば訪問すべき先があるか、相当の土産が要るか、それ等を考へてゐて下さい。その他用意しておくべき点があれば何々と、人件物件等箇条書にしておいて下さい。

就職は、第一は学校に居残る副手として、第二は学校がよいと思ふ。その他は考へて見ぬ、具体的になる迄は、宮地博士のは神社では無いか。

次に今日3月1日より4日迄児童引率お伊勢詣をする。金は洋服等調製に必要とあれば後送する、金額申送られよ。5円10円の金は小使に常に必要であらう。教育会の補助は3月迄でせうから4月からは自活せねばならぬでせう。そうすると4月分からは食費等一切自給せねばならぬことかと考へる。尚又徴兵検査に上り下りするとすると大分必要かと考へられる。

興は3月5日が卒業式、3月16日より入学試験、広島高工を選択してゐる。模様等は追報する。家内一同無事健康である。武男がとても元気である。3月1日午前5時半 父より勝彦殿

3月5日

宮地直一教授より

前略・・・月50円計の謝礼にて神社の調査に関する仕事有之御請下され間敷也。毛利公爵家の御仕事の関係も在之由。尤もそれ程手間のとれるものには無之。一応貴意御伺申上候。出雲大社に関する文献蒐集、ソノ内容等ハ是ヨリ立案、略一ヶ年出来れば四月より君に願度三月五日 宮地直一

3月6日 上田孝治より

3月8日 山高生西本義久より 両君、入試上京12日9時55分東京到着

3月19日 毛利久君より

前略・・・貴兄の卒業論文の題目もすでに史学雑誌上に於いて拝見いたしました。数年間の絶えざる御研究の結晶と拝察いたして居ります。もう口頭試問・学士試験合格者発表も畢（おは）って一応御帰省中かと思っております。

卒業後の方針はどうか。大学院に留（とどま）られますか。就職されますか。小生の方は去る14日卒業論文に関する口頭試問あり、16日学士試験合格者発表がありました。小生の卒論は「飛鳥寧楽時代仏教彫塑の研究」と云ふ一見美術史学科の論文の如きものとなりましたが、平常興味を寄せてはみたものの、いざ書くとなれば非常に苦心いたしました。卒業後は引き続いて大学院に入学することとなり、京都から動かないで居ります。どうかこちらにも御いで下さい。下略

3月22日 上田孝治

3月24日 西本義久 大学入試の際の世話に就ての御礼

同日 山中松子より

大分春めいて参りました。御無沙汰致してをりますがお元気の御事と存じ上げます。私共もお蔭様で元気に送日して居ります。いよ／＼御卒業ももうすぐでございますね。心よりお祝ひ申し上げます。父がぜひお祝ひ申したいと申しほんのお祝ひのおしるしに小為替を同封致しました。

あまり少しでさしてお役にも立たない事と存じますが何かにお使い下されば父も大変喜ぶ事と存じます。母も心より御卒業をお喜び申し上げて居ります。去年の丁度今頃は心行くまで遊ばしていたゞきましたが今年はどこへも出ませず丁度今頃は橙畑の手入れ時で時局柄人手が足りませづ困って居ります。お天気さえよければ朝早くより夕方まで皆と一緒に畑の草取りを手伝っております。下略（叔母よりの同趣旨の手紙同封）

3月？日 父より

就職が決定して先づお芽出度う。大学に居残れば勉強も出来て、今度転出するやうなことがあるれば、きっとよい所へ行けることでせう。それを期待する。然し大学に居ればカツ／＼自活が出来る程度の報酬は得られるや否や。前に云った通り宮地博士の下に居れば平泉先生との関係が兎角と困難であらうけれども、結局詮じつめたら何処に居ても誠心誠意君国の為に尽すことにはまちがひはないであらうからよく感情を害することなく懇切なる御指導を受けることが大切と思ふ。残金は又上京の時に

3月24日 父より

大学から父兄として列席するやう通知があったし、長年一生をかける念願が叶ったわけであるから費用もかゝるけれども出席するつもり、今日返事を出した。27日は総代会であるからそれをすまして即日出発するか又は翌朝出発するか電報で知らせる。帰途を急ぐ為めに31日の夜か又は1日には出京せなくてはならぬ、故に先生の訪問はそれ以前にしておきたい。

卒業記念に在郷の先生や近隣の人々へ卒業祝の品を何か配布する必要がある故に適当なものをお売の店が大学の近所にありはしないか探しておいて下さい。土産として買ふから。

興が広島高工にパスした。芽出度いが金が要る。彼に激励の手紙を出してやりなさい。金
両度ノ 60 円、40 円着金したか。

3 月 25 日 杉本洋服店精算書 国民服甲 57 円

同日 上田孝治より

・・・東大受験に際しては全く並々ならぬ御配慮にあづかり乍ら不如意にも不合格の御返
礼を致し候。

・・・電文の意想外なりしにしばし吾が眼を疑ひ申し候へ共更にかゝる電文を御打下され
し大兄の御心境いかばかりなりしやと拝察致し、なまぢ涙も出で来らさり候。・・・本年一年
専修大学に通ひて再び同じ東法を受験致し度き心算の御座候・・・来月 7・8 日位には上京致
すべき心算に是有り候。・・・上京の際宿るべき場所を御配慮下され候はゞと何卒御願ひ申し
上げ候・・・下略

謹啓、時下春暖之候愈々御勇健之段奉賀候

陳者 小生儀今般以御蔭東京帝國大學文學部史學科を卒業仕候 茲に
多年に亘る御懇篤なる御指導御厚誼とに對し衷心より厚く御禮申上候
尚卒業と共に東京帝國大學助手として文學部勤務を拝命し神道研究室
にて研學する事に相成申候間今後共一層の御指導御鞭撻を賜り度偏に
奉萬祈候

右乍略儀御挨拶申上度如斯御座候

敬具

昭和十六年四月

上 田 勝 彦

4 月 2 日 父より

無事 1 日終列車 11 時帰着した。学校も社頭も今桜の真盛である。家族一同待つてゐた。皆
卒業を心から喜んでゐる。弘前に旅行するにしても、何とか注意して風邪をひかぬやうに、
胃腸を害せぬやう。略

同日 後輩坂本夏男より 青森より弘前への車中にて

拝啓 出発に際しましては色々懇情溢るゝ御注意や御手紙を戴きまして誠に有難うござい
ました。青森地方は白雪皚々（しろ／＼）山を覆ひ谷を埋めてをります。昨夜は鍛錬会で行
ふべき行事に就きひそかに案をねりました。事の成否は問はず、只大海の中に、誠の一滴を
投ずる気概を以て頑張つて来ます。 敬具

4 月 5 日 石田 馨氏より

陳者その後御方針御決定相成申候哉 實は目下湯浅男爵記念事業として伝紀編纂の計画有
之 渡辺世祐博士御指導の下に 主任者を決定 資料の蒐集その他実行に着手・・・尚その
他これが補助者を要する事と可相成（あいなるべし） 若し貴君が時間の余裕ある地位にあら

- るゝならば御協力をお願い出来間敷（できまじ）か。下略
- 4月6日 上田孝治より
・・・8日の午後2時（東京9時15分着）発の列車で上京致すことに決めました。不届乍らどうぞ宜敷御願致します。
- 4月8日 父より
前略 ・・・固成が学校に入った。さてどんな気持ちであったやら・・・興は昨日一人で広島に行った。今日入学式があることせう。下略
- 5月1日 熊本隆治宇部中学校々長より
・・・陳者今般愈々御卒業 直ちに助手御拝命 深く斯道御研修の趣大慶至極に存上候 下略
- 5月2日 藤田鴻輔中将より
・・・先般芽出度帝大を御卒業相成 加之御成績最優秀の故を以て 御校助手御拝命の御趣 益々慶祝之限りに存上候 下略
- 5月3日 椿八重子より
・・・御親切な御案内（大学五月祭）を頂いて誠に有難うございます。明日は必ず姉と私の親友と三人で参りたいと思つて居ります。中略・・・詳しい案内書までお送り下さったのですから御案内して頂かなくても結構でございます。下略
- 5月5日 友人下出積世より
・・・陳者去る3日の神道研究会に就きわざわざ御通知を戴き候も、小生相憎両三日風邪気味にて当日悪寒甚しく執務後直ちに帰宅致し欠席致候に申訳無之厚く御詫申上候 下略
- 5月19日 福田初枝嬢より
お目出度う存じます。今度東京帝大を御卒業遊ばされ尚大学助手として神道研究室にて御研究なさいます由、衷心よりお喜び申し上げます。上田先生のお喜びさぞかしやお察し申されます。又私達も深川町から東大助手を出して本当に嬉しうございます。今後益々御研鑽を積まれまして学会に貢献なさいますと同時に郷里の後輩の御指導にも御尽力下さいます様お願い申し上げます。・・・
私も今広島に参り拙（つたな）腕ながらも齒科の方の一部を受持つてをります。女ながらも男不足の折り、出来ます所までやってみようと思つてをります。下略
- 5月20日 千家尊統宮司より
・・・扱此度は宮地先生を経、大社資料蒐集の件御願ひ仕候処、御多忙の御引き受け被下、誠に難有奉存上候、御勉学の余暇を以て、何卒ご世話蒙度く、此段厚く御依頼申上候 下略
- 5月下旬 父へ
前略 18・19・20日こちらに参りました。別格官幣社結城神社社務所にて三重県同学と切磋しました。接してみても地方には十人なり二十人なり真の人物あるを見出し嬉しく思ひます
- 5月25日 父へ
興の件承諾 興の気持も父上のお考へも稍々（やや）了解出来候。さり乍ら興の気持に就ては、激動変転期の一時的言葉のみにて、精神生活の本質的動向を歴史的に観察してその由来する所を的確に把握し非ざる故、尚考ふべき余地大なるを覚申候・・・

興の発憤は高工の期待に副(そ)はざりしを契機としてのものにて、根源は身を立て名を揚げ以て父母を顕(あらは)す功名心にあり、それが生まれつきや時勢に促された英雄的性情によって誇大化されたものではなきや。問題は義利を弁別し一意道によって君国に報あんとの真志に基くものなるや否やであります。

一体何の為に海兵に入らねばならぬか。又高校が良いのか、どうして技術家たることが不可なるか、こゝが納得できれば高工を退学して思う処に進むも可。しかし何故高工に入学せしや、技術を通しての報国の為には非ざりしや、要は忠勤の為か立身出世の為か、根本の所から再検討を促す必要があると認めます。 下略

5月27日 植木静枝嬢より

前略 今日限りで退舎し親族の家から通学致したいと存じます。就きましては退舎願並に保証人の捺印が必要でございます。甚だ恐れ入りますが、退舎願を書いて捺印の上送って頂きたうございます。下略

5月29日 千家尊統宮司より

前略 扨御研究の際に左記関係の事ども貴見に入り候はゞ、乍御手数、御教示被下度御願申上候。左記古典には出雲国は根の国黄泉の国等と有之候処、何時の頃よりか出雲は神国と称(たた)へ出し今は我れも人も左様に申し居り別に不審にも思はず候。しかし穢れある黄泉国がその反対たる神の国と称(しょう)せらるゝ迄には相等(そうとう)の過程をたどりし事と思はれ候。これにつき貴意見亦如何なる典籍を読めば了解出来候や。以上 敬具

6月4日 友人八波 浩より

2日徴兵検査無事終了、乍残念第二乙種 帰京は7日前後となり、欠勤のみに打過ぎ、大兄には恐縮に存仕候

6月8日 椿萩野より

建武義会より手紙が、「松岡洋祐」の本も来てゐます。処理は如何に。

(前から在数を知らせたくない者には、椿家に居住しているように知らせていた為と思う)

6月12日 弟興より

御手紙正に拝見、読み行くうちに切々の情胸に迫りて、感激のあまり目頭の熱くなるを覚ええました。何か大きなものに推されて唯茫然として云ふ所を知らない有様でした。繰返し拝読するにつれて自然に意味もとれ、真(まこと)に有難を御教訓徹底的な御悟しを拝して心魂のふるふを覚ええました。中略・・・

兄上よりの御手紙昨日拝受致しまして又々私の至らざる所を発見し実に恥しく思つてゐるのであります。兄上独特の明鏡に照らされると心の奥の底まで透視し尽され、其の正大なる天地の理を究めたる御教訓には、自分の心の如何に汚く公明正大に欠くる事が浮き表されてなほ余りあるを覚えたためであります。

正しき基(もと)を固めて此の上に千辛万苦を重ねて東西万古に光る人格を作らねばならぬと決意しました。海兵志願の御許可よりも有難く尊き御手紙尚一層熟読玩味、心魂益々陶冶する覚悟であります。又得難き書物をお送り下さいまして実にその御心尽したるや拝察するに拝察するに有難き極みでござゐます。又々その上に充分ならざる研究費をおさきになって、私の為に下さる等、最有意義に使ふつもりであります。下略

- 6月23日 先輩小林健三氏より
 前略 ……御来書の一々、まことに御説の通りにて、何卒この上ともシッカリ御勉強の程偏に祈上候。神道学の重要性とその神髓の發揮とには、要は少壯有為の学徒の真剣なる洞察と研究の上に築かるべく及ばず乍ら、小生も高き理想を追うて、目下黙々沈潜研學いたし居るに御座候。この上とも貴兄の御自愛御自重を切に／＼祈上候……次に拙著「垂加神道の研究」は一冊御寄附いたし（研究室へ）候。
- 同日 千家尊統宮司より
 御多忙の処御貴重なる時間を横取り仕候事罪少なからず大に恐縮仕候。扱細々と御垂教誠に難有存上候。目下は、出雲は神国より島根（出雲・石見・隠岐）は神国と発展仕居候、小生存居候文献は新らしきものに有之候、序ながら申上候、毛利家文書之三 791 吉川元春自筆書状（元春より輝元への書状の一節……元龜元年二月廿日）猶史学会に於て伯耆之卷、異本伯耆卷等につきその史料としての価値を御研究被成候（なされさうらう）御方有之候由（略）万一史学雑誌に其概略記載有之候はゞ其号数乍御手数御教示賜はり度御願仕候。下略
- 同日 椿八重子より
 出雲大社書類の仕事やってみました但し御覧の通りの有様で大変恥しいことと存じます……「ナチス女性の生活」少し読ませて頂きました……今迄の私は少しの真実も持ち合わせない自尊心の塊りみたいなもので実際穴へ入りたい気持ちで……
- 6月28日 前助手増田英男氏より返書
 前略 「垂加神道の研究」所在の件、小林先生より同書の御寄贈を受けたことは確かに御座候、図書館へ登録の為送付中にはあらざるやと存ぜられ候。
- 9月3日 平嶋三枝嬢より
 本朝朝日新聞案内欄にて筆生募集の記事を拝見致しまして、早速履歴書同封致しました……仕事も下手と存じますが一生懸命に致すつもりでございます故よろしくお願い申し上げます。
- 9月7日 父へ
 前略 ……興の問題も一応落着の趣、喜ばしき事にて候。惟（おも）ふに興の今度の態度は真に美事にして常人の能（あた）ふ処に非ず。道に適（かな）へりと存候。その毅然たる精神は正に大丈夫のそれにして、今にして道に向はしめば、他日大をなす事期して待つべき明白に候。然れ共興が自ら大悟一醒したるに因るに非ず大勢に従ひての事なれば、親たり兄たる者私情俗心を去って道に依って自覚発奮せしめざれば、混沌苦悩の魂に慰安と光明を齎（もたら）すことにはなるまじく候。一部略
- 9月15日 高階来章より
 ……先般御電話被下候、10月4日神道研究会発表題目一先づ「神功皇后とその神格」と願上度、何卒よろしく御願申上候。下略
- 9月17日 吉沢氏宛
 筆生御応募被下洵に難有存候。早速採否の通告可申答の処延引恐縮に存候。実は図（はから）ずも約三百の希望者有之、結局此の方面の専門家に御願致し候へ共……一応履歴書御返送申上候 下略

- 同日 速水 清氏より
明 18 日 (木) 午前 7 時明治神宮に参拝仕るべく候間、塾生御引率御出席被下度御願申上候
(塾は松柏塾 豊島区西巢鴨 2 ノ 2400 上田方)
- 9 月 上田助手殿俸給
支給額 68 円 以文会費 50 銭 共済会費 65 銭 差引支給 66 円 85 銭
(何支払メモ 筆生報酬 平嶋嬢 17 円 70 銭 山中老 14 円 小川氏 10 円 別途 齒医者 20 円 塾務 疊表代 20 円 塾記念写真代 20 円 藤崎移転費 10 円)
- 9 月 22 日 朱光会より
9 月 25 日 (木) 午後 7 時より曙町に於て秋季総会を開催仕り度く存居り候間、万障御繰合せの上御出席被下度く御通知申上候。下略
- 9 月 28 日 鹿兒島市飛岡徳之助より
時下秋冷の候に御座候処益々御健勝之段奉慶賀候、就而 (ついでには) 愚息貫逸事 (かんいつがこと) 今般貴塾に御世話に預る事に相成申候由、同人は御覧の通り極て不束者に御座候得共何卒万事宜敷様 (よろしきやう) 御指導御高配賜度 (たまはりたく) 乍恐縮以書中懇願候
- 同日 父へ
前略 入営も間もない事と存じますので、やるべきことはやって置くべく色々活動して居ります。殊 (こと) に研究室の仕事等は筆生を四名使ってやらせて居ます。12 月卒業・国民皆勞ぐず〃〃云ふべきでなく当面の問題に真正面からぶつかるのみです。食料品を多量御送附下され塾生共に大いに喜んで居ります。略
- 10 月 1 日 千家尊統宮司より
前略 御申越の如く 12 月迄に完結候ものならば 9 月分より倍額にいたし得られ候と係の者申出候。万一事実不可能の事に属し候か、或はあやぶまるゝ事ならば倍額は困難と存ぜられ候、如何なるものなる哉。勿論或程度の増額は何とかいたし度 (たく) 候。右御意見承り度候、万一完了せず御入営の時の事 下略
- 10 月 9 日 新京市在住藤村 禅先輩より
・・・新設の第二塾を預り居らるゝ由種々御苦勞奉感謝候、会員諸兄間に別に変わりたる事無之候や。
研究室の方は如何候や、本日は一寸御願致し度き事ありて執筆仕候。実は寺田先輩よりの御依頼に候が苦 (も) し御暇有之候はゞ、次の事務調査の上一報被下間敷 (くだされまじ) く候也。一、下野国芳賀郡西明寺の由来、一、同郡益子町の益子貞正 (出雲守) とその父 及び益子英政の系図 ご面倒乍ら以上二件に就き 御調べ願上度候 下略
- 10 月 12 日 千家尊統宮司より
前略 費用の事拝承 (はいしょう: 承知) 仕候・・・尊書に依れば難物も有之候御様子にて一方ならぬ御心勞拝察仕候、しかし何卒出来得限りの余暇を御利用なされ御世話蒙り度く御願ひ仕候。
- 11 月 10 日 弟興より
・・・私は九月以来大いに張り切って勉強を進めてゐます。・・・今では来年試験まで家におらせて戴くつもりです。何と云つても是非通らねばなりませんから一寸の光陰も軽んぜず

全精神を奮ひ起して、最後の最後までのかそるかの大努力をする覚悟です。

11月27日 千家尊統宮司より

前略 扱入営期日決定の時と相成候処、貴下御入営はいつと定まり申候也。乍御手数御通知賜はり度御願仕候。猶ほ御予定の通り進捗の事と存候処、万一完了せざりし際の御方針等御賢考の程御漏し被下候はゞ誠に仕合せに御座候 下略

12月1日 千家尊統宮司より

・・・扱先日愚書を以て御質ね仕候点、偶然に社務所宛貴書中にて拝承いたし候。右に依れば御入営は来る1月10日の由にて此12月にて一先づ御打切り成さる事に相成候事に御決定の御様子誠に永々御手数を煩はし候段厚く御礼申上候、而して今後のことは宮地先生に御伺ひ残りの諸本につき継続仕度(つかまりたく)候。猶乍失礼本日分相届けいたし候際は御慰勞のしるし迄に別に贈呈仕度き所存に有之候につき其節には御笑納被下度御願仕候、又御蒐集の資料御送附の時には小生宛に直接に御発送被下候 下略

12月3日 父より

大体の秋祭が済んだら学期末になって今年も暮れて行く、忙しくなっていくものだ。大学も12月卒業で何かと忙しいことせう。何日頃に帰国致しますか、一応帰国して又上京といふのは事が混雑致しますから、何もかも取りまとめて帰国した方がよくはないか、その為めなら月末になっても仕方は無い。余り日時が切迫すると予期せぬ支障があるものだから、その様なことの無いように、薄給である上に研究費交際費等の為め雑費がが入用なら、その由申送るがよい。家内一同無事、勝延祖父40年祭をしようと思ふ。帰へれば、それを一緒にしたい、山中の松子さんが深川町山下四郎を養子に貰受けた。

12月9日 朱光会より 12月11日の明治神宮及宮城参拝案内

12月13日 弟興より

・・・兄上様御帰郷中はいろいろ御薫陶下さいまして深く反省感謝致します。又多額のお金を下さいまして御仁滋の程深く御礼申し上げます。母上のものと有意義に使はせて戴くことを得まして、心から感謝致します。又只今は国史に就きまして非常に得がたき御注意を下さりまして、大いに研究するつもりです。

受験に就きまして又他の何事に就きましても、いつ如何なる事が起り、判断に迷ふが如き事之有るやも知れませんが、何卒其の節は御心配御指導を仰ぎ度う、是れお願い申し上げます。寒気益々加はります折柄、御身体を御鍛錬され、1月の御入営に備へられる様お願い申し上げます。

12月15日 父より

厚狭からの通信は確に受け取った。無事着京したことゝ思う。その後の海軍及陸軍の戦勝は実に言語に絶し何ともいひやうの無いこと、実に興隆此の上無き芽出度きことと存ずる。・・・

次に翌10日の先祖祭には三見よりは叔母さんと松子さんとがやって来た。お前が居ないのを大層残念がってゐた。6時の汽車で帰る。・・・松子さんが今度の手紙でよろしくと伝言して呉れとのことであった。・・・

例の山崎さんのことは何とか態度を鮮明にすることを迫られてゐるかも知れないが、お前

の一身上の将来もはっきりしない。・・・兵役のこともあり将来支障を起さぬよう約束はせぬ
がよい。下略

12月21日 千家尊統宮司より

華墨(かぼく;お手紙)拝見仕候、御入宮の期も近づき何かと御心せはしき事と拝察仕候、扱
資料の件につき宮地先生と御協議被下候由、もし直接に御引継の事とも相成候はゞ、何卒よ
ろしく御願仕度候。下略

12月下旬 東大全学会より 神道研究会助手宛

畏(かしこ)くも宣戦の大詔を拝し感激に堪へず、茲に会員一同二重橋に詣(まか)り、恭(う
やうやし)しく皇居を拝し征戦の完遂と国運の隆興とを祈誓(きせい)し、以て益々臣子の本分
に邁進せむとす。

記 12月26日午前9時半 運動場に集合 晴雨に拘らず決行

12月26日 熊本県菊池郡 渡辺 恵小学教諭より

(塾での鍛錬会に於ける世話に就ての御礼並に近況報告)

昭和17年

1月2日 父より

国家隆昌の新春を迎へ慶賀の到に存候・・・おん元の為に新茶を汲み蔭膳を据え、一同雑煮
を祝申候、帰郷の日を指折り数へ待居候。

了 2023年5月4日 訓と注を添える 啓之